

令和4年版

歯科衛生士国家試験出題基準

一般財団法人 歯科医療振興財団 編

目 次

歯科衛生士国家試験出題基準について
出題基準使用上の注意事項
歯科衛生士国家試験制度改善検討部会報告書

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	1
I 人体の構造	3
II 人体の機能・構成成分	6
二 歯・口腔の構造と機能	11
I 歯・口腔の構造	13
II 歯・口腔の機能・組成	15
三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進	17
I 病因と病態	19
II 感染と免疫	22
III 生体と薬物	26
四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	29
I 総論	31
II 口腔清掃	32
III う蝕の予防	33
IV 歯周病の予防	34
V その他の歯科疾患の予防	35
VI 環境・社会と健康	36
VII 保健・医療・福祉の制度	39
VIII 歯科疾患の疫学と歯科保健統計	40
IX 地域歯科保健活動	42
五 歯科衛生士概論	45
I 歯科衛生士とその業務	47
六 臨床歯科医学	49
I 臨床歯科総論	51
II 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療	53
III 歯の欠損と治療	56
IV 顎・口腔領域の疾患と治療	57
V 不正咬合と治療	60
VI 小児の理解と歯科治療	62
VII 高齢者の理解と歯科治療	64
VIII 障害児者の理解と歯科治療	66
七 歯科予防処置論	69
I 総論	71
II 歯周病予防処置	71

III	う蝕予防処置	72
八	歯科保健指導論	75
I	総論	77
II	情報収集	77
III	口腔衛生管理	78
IV	生活習慣指導	79
V	食生活指導	80
VI	健康教育	81
九	歯科診療補助論	83
I	総論	85
II	主要歯科材料の種類と取扱いと管理	86
III	保存治療時の歯科診療補助	87
IV	補綴治療時の歯科診療補助	89
V	口腔外科治療時の歯科診療補助	89
VI	矯正歯科治療時の歯科診療補助	90
VII	ライフステージに応じた歯科診療補助	91
VIII	エックス線写真撮影時の歯科診療補助	91
IX	救命救急処置	92
X	口腔機能管理	93
	索引	95

歯科衛生士国家試験出題基準について

1 歯科衛生士国家試験出題基準見直しの経緯

平成 29 年 3 月に歯科衛生士国家試験出題基準を見直してから数年経過しているため、令和元年度歯科衛生士試験企画評価委員会の提言を踏まえて、令和 2 年度に歯科衛生士国家試験制度改善検討部会を設置した。

しかし、当部会は、新型コロナウイルス感染状況下により開催が延期され、令和 3 年 3 月に延期された。そこででの出題基準の改定の方向性の提言を受け、令和 3 年 8 月歯科衛生士国家試験出題基準検討委員会を設置し、令和 3 年度中に出題基準の改定を行うことにした。

2 歯科衛生士国家試験出題基準検討委員会

令和 3 年 8 月 5 日から令和 3 年 12 月 21 日までの間、歯科衛生士国家試験出題基準検討委員会を 4 回開催し、本委員会において見直しを行った。

この出題基準は、第 32 回歯科衛生士国家試験（令和 5 年）から適用する。

3 歯科衛生士国家試験出題基準の活用方法

- (1) 歯科衛生士国家試験は、歯科衛生士法第 10 条に基づいて、「歯科衛生士として必要な知識及び技能について」行われる。必要な知識及び技能とは、歯及び口腔の疾患の予防処置、歯科診療の補助並びに歯科保健指導を行うために必要なものである。

この内容を具体的な項目によって示したのが、歯科衛生士国家試験出題基準である。歯科衛生士国家試験の妥当な内容、範囲および適切な水準等を確保するため、歯科衛生士試験委員はこの基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は歯科衛生士試験委員会に委ねられている。

したがって、歯科衛生士国家試験出題基準は、歯科衛生士学校養成所が行う教育内容のすべてを網羅するものではなく、教育の在り方を拘束するものではない。

- (2) 歯科衛生士法施行規則第 11 条に基づく試験科目は次の通りである。

- 一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能
- 二 歯・口腔の構造と機能
- 三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進
- 四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
- 五 歯科衛生士概論
- 六 臨床歯科医学
- 七 歯科予防処置論
- 八 歯科保健指導論
- 九 歯科診療補助論

- (3) 本基準は、歯科衛生士試験委員が試験問題を作成するに際し、準拠する出題の基準として、その範囲を科目別、項目別に示したものである。
- (4) 本基準の各科目の名称および各科目の出題方針は、歯科衛生士学校養成所指定規則の別表および歯科衛生士養成所指導要領に掲げられている教育内容に必ずしも一致するものではなく、教育内容のすべてを網羅したものでもない。
- (5) 本基準では、「人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能」、「歯・口腔の構造と機能」、「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」および「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」は主として知識の理解を、また、「歯科衛生士概論」、「臨床歯科医学」、「歯科予防処置論」、「歯科保健指導論」および「歯科診療補助論」は、知識、技能および対応に関連事項の理解をそれぞれ出題できるようにしている。
- なお、栄養指導に関する問題は、出題の配分を考慮し「歯科保健指導論」から、口腔機能管理に関する問題は、出題の配分を考慮し「歯科診療補助論」からまとめて出題することとしている。
- (6) 本基準が正しく理解され、歯科衛生士試験委員によって活用されることにより、歯科衛生士国家試験が妥当な出題範囲と適切水準で行われることを期待する。

歯科衛生士国家試験出題基準検討委員会委員（令和3年8月～令和4年3月）

委員長	日野出 大 輔（徳島大学大学院）
副委員長	弘 中 祥 司（昭和大学歯学部）
副委員長	横 瀬 敏 志（明海大学歯学部）
委 員	麻 賀 多美代（千葉県立保健医療大学）
	天 野 修（明海大学歯学部）
	新 井 一 仁（日本歯科大学生命歯学部）
	今 井 健 一（日本大学歯学部）
	江 川 広 子（明倫短期大学）
	清 島 保（九州大学大学院）
	佐 藤 義 英（日本歯科大学新潟生命歯学部）
	里 村 一 人（鶴見大学歯学部）
	柴 田 佐都子（新潟大学大学院）
	島 村 和 宏（奥羽大学歯学部）
	十 川 紀 夫（松本歯科大学）
	武 部 純（愛知学院大学歯学部）
	玉 木 裕 子（鶴見大学短期大学部）
	戸 原 玄（東京医科歯科大学大学院）
	那 須 郁 夫（北原学院歯科衛生専門学校）
	福 田 雅 臣（日本歯科大学生命歯学部）

（五十音順）

出題基準使用上の注意事項

- 1 本基準は、歯科衛生士国家試験の出題にあたり、各科目の範囲を示したものであって、出題の方法については触れていない。
- 2 本基準においては、各科目の出題方針・出題する事項の概要を整理して示している。
- 3 本基準については、各科目を大項目、小項目に分類している。
 - (1) 範囲
I、II、III……の番号を付して整理した。
 - (2) 大項目
総論的あるいは概括的な知識について整理したもので、1、2、3…の番号を付した。
 - (3) 小項目
大項目に示される範囲内の各論的知識を整理したもので、A、B、C…の文字を付した。
なお、小項目で、具体的に内容を示す必要がある場合は、a、b、c…の文字を付して整理した。
- 4 その他
同一事象に対し異なる表現がある場合には、括弧書き等によってどちらも使用可能とした。
試験委員会の判断で、括弧内・外の語を適宜使用できる。
なお、括弧は、以下のルールに基づいている。
 - () 直前の語の説明 例：有床義歯（全部床義歯・局部床義歯）
 - < > 直前の語の同義語 例：国際生活機能分類〈ICF〉
 - { } 省略しても意味または分類が変わらない語 例：非侵襲性 {暫間的} 間接覆髄法

歯科衛生士国家試験制度改善検討部会報告書

令和3年3月26日

I はじめに

歯科衛生士国家試験は、日本の歯科保健医療ならびに福祉の各分野での歯科衛生士業務の質の担保を確保するうえで極めて重要な試験である。平成4年3月1日に国家試験として第1回が実施されて以降、時代の要請に応えながら改善し、直近では平成27年6月7日の歯科衛生士企画評価委員会報告書に従って試験問題数等を見直したところである。

歯科保健医療等を取り巻く環境は、大きな変革期を迎えている。歯科衛生士の資質向上においても国家試験の改訂が必要になっており、歯科医師国家試験も概ね4年に1度改善を図っていることから、歯科衛生士国家試験についても同様な改善が必要と思慮される。

今回、令和元年6月7日開催の歯科衛生士企画評価委員会における提言を受け、令和3年3月当部会における議論を踏まえ、改善の方向性を明らかにするとともに、その方向に従って歯科衛生士国家試験出題基準を改定する委員会を設置して時代の要請に応えることとする。

※過去の「出題基準見直し検討委員会」

第1回	平成10.7.1～11.3.31	第9回試験～
第2回	平成14.9.2～15.3.31	第13回試験～
第3回	平成18.11.1～19.3.31	第17回試験～
第4回	平成22.7.1～23.3.31	第21回試験～
第5回	平成28.8.30～29.3.31	第27回試験～

歯科衛生士試験企画評価委員会

歯科衛生士国家試験制度改善検討部会

歯科衛生士国家試験出題基準改定委員会

歯科衛生士国家試験改定に関する委員会の位置づけ

Ⅱ 歯科衛生士国家試験問題について

(1) 出題方法等

出題総数については現行の数を維持し、領域ごとに出題数を規定することによって問題の質を担保する観点から現行の 220 問とする。

(2) 出題形式

「4 肢択 1 問題」「4 肢択 2 問題」のいずれかで出題し、その割合については、合格率の経年的な安定性を保つ観点から、問題全体の難易度や内容を試験委員会で十分に検討して決定する。

(3) 状況設定問題

状況設定問題は、臨床に関する知識・技能を有しているかを、より適切に評価する目的で出題していることから、一定数を維持するよう配慮する。

Ⅲ 出題基準

時代の要請に応える歯科衛生士を確保する観点から、下記の出題について更なる充実を図り、資質向上を促進していく必要がある。

- (1) 高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科診療の変化に関連した、歯科衛生士として必要な高齢者や在宅・施設介護や病棟での対応に関する出題
- (2) 地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する出題
- (3) 口腔機能の維持・向上や摂食機能障害への対応に関する出題
- (4) 医療安全や職業倫理等に関する出題
- (5) 周術期等口腔機能管理に関する出題
- (6) 医療のグローバル化に伴い歯科衛生士としての国際貢献を踏まえた国際保健に関する出題。

なお、近年は災害時の対応も重要となっているが、出題に際しては、学校・養成所における教授内容を考慮する等の一定の配慮が必要である。

その他、保健医療・介護の領域で歯科衛生士として必要不可欠な内容について出題する。

歯科衛生士国家試験制度改善検討部会委員

委員長 川 口 陽 子（東京医科歯科大学名誉教授）
委員 遠 藤 圭 子（全国歯科衛生士教育協議会副理事長）
尾 松 素 樹（日本歯科医師会常務理事）
瀬古口 精 良（日本歯科医師会専務理事）
武 井 典 子（日本歯科衛生士会会長）
日野出 大 輔（徳島大学大学院教授）
眞 木 吉 信（全国歯科衛生士教育協議会理事長）
吉 田 直 美（日本歯科衛生士学会会長）

（五十音順）

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能

（出題方針）

- 1 人体の構造・組織に関する基本的知識について出題する。
- 2 人体の機能、構成成分に関する基本的知識について出題する。

I 人体の構造

大項目	小項目	備考
1 細胞・組織・器官	A 器官・器官系 B 組織 a 上皮組織 b 支持組織〈結合組織〉 c 筋組織 d 神経組織 C 細胞 a 細胞膜 b 細胞小器官・核 c 増殖・分化・細胞死	骨・軟骨と血液を含む 染色体を含む
2 循環器系	A 心臓 B 血管系 a 動脈 b 静脈 C リンパ系	頭頸部の血管系は歯・口腔の構造と機能で出題する 頭頸部のリンパ系は歯・口腔の構造と機能で出題する
3 呼吸器系	A 呼吸器の構造 a 鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭 b 気管・気管支・肺	歯・口腔の構造と機能で出題する
4 運動器系	A 骨格系 a 骨の形態と構造 b 骨の形成・吸収・改造〈リモデリング〉 c 頭蓋 d 脊柱・胸郭 e 上肢・下肢 B 骨の連結 C 筋系 a 筋の形状と作用 b 骨格筋	骨化様式を含む 歯・口腔の構造と機能で出題する 起始・停止・神経支配を含む 頭頸部の筋は歯・口腔の構造と機能で出題する

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能

大項目	小項目	備考
5 神経系	A 神経組織 a 神経細胞〈ニューロン〉 b 神経膠細胞 B 中枢神経系 a 脳 b 脊髄 C 末梢神経系 a 脳神経 b 脊髄神経 c 自律神経系	三叉、顔面、舌咽、迷走、舌下神経は歯・口腔の構造と機能で出題する 頭頸部の自律神経系は歯・口腔の構造と機能で出題する
6 感覚器系	A 特殊感覚器の構造 a 視覚器 b 聴覚器・平衡覚器 c 嗅覚器 d 味覚器 B 一般体性感覚器の構造	歯・口腔の構造と機能で出題する 歯・口腔の構造と機能で出題する 皮膚感覚受容器と深部感覚受容器を含む
7 消化器系	A 消化器系の構造 a 口腔 b 咽頭 c 食道・胃 d 小腸・大腸 e 肝臓・胆嚢・膵臓	歯・口腔の構造と機能で出題する 歯・口腔の構造と機能で出題する
8 泌尿器系	A 泌尿器系の構造	
9 内分泌系	A 内分泌器の構造	
10 生殖器系	A 女性生殖器の構造 B 男性生殖器の構造	

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能

大項目	小項目	備考
11 全身	A 体表 a 人体の部位と区分 b 皮膚と粘膜の構造 B 断面と方向用語	区分を含む 皮膚付属器を含む。皮膚感覚受容器は感覚器系で出題する 姿勢・体位を含む
12 発生	A 受精と着床 B 胚葉 C 胎児の発育	多能性幹細胞を含む
13 加齢・老化	A 器官・組織の形態的变化	臨床歯科医学・高齢者の理解と歯科治療から出題する

II 人体の機能・構成成分

大項目	小項目	備考
1 人体の構成成分	A 体液と恒常性維持 B 無機質 C 有機質 a タンパク質の構造 b 糖質の構造と種類 c 脂質の構造と種類	
2 細胞	A 細胞の機能 a 細胞膜 b 細胞小器官 c 核 B 遺伝子とタンパク質合成 C 細胞分裂 D エネルギー代謝 E 物質代謝 a タンパク質の代謝 b 糖質の代謝 c 脂質の代謝 F 酵素の種類と作用	補酵素を含む
3 血液	A 血液の成分 a 赤血球 b 白血球 c 血小板 d 血漿 B 血液型と輸血 a 血液型と抗原抗体反応 b 輸血 C 凝固と溶解 a 止血 b 線溶系 c 出血傾向	

大項目	小項目	備考
4 循環	A 血液循環 a 心臓 b 血管 c 血圧 d 循環調節 B リンパ循環	刺激（興奮）伝導系、心電図を含む
5 呼吸	A 外呼吸と内呼吸 B 換気 a 吸息と呼息 b 肺気量 C ガス交換 D 血液ガスの運搬 a 酸素の運搬 b 二酸化炭素の運搬 E 呼吸の調節	呼吸筋の働きを含む
6 筋	A 骨格筋 B 心筋 C 平滑筋 D 筋の収縮	
7 神経	A 神経細胞〈ニューロン〉の機能 a 活動電位の発生 b 興奮の伝導 c シナプス伝達 B 中枢神経系 C 末梢神経系 a 体性神経系〈脳・脊髄神経〉 b 自律神経系〈交感・副交感神経〉 D 神経伝導路	反射、上行性・下行性伝導路を含む

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能

大項目	小項目	備考
8 感覚	A 感覚の基本的性質 B 特殊感覚 a 視覚 b 聴覚 c 平衡感覚 d 嗅覚 e 味覚 C 体性感覚・内臓感覚 a 皮膚感覚 b 深部感覚 c 内臓感覚	歯・口腔の構造と機能で出題する 歯・口腔の構造と機能で出題する
9 消化吸収	A 摂食嚥下 B 胃における消化 a 胃液 b 胃の運動 C 腸における消化と吸収 a 膵液 b 胆汁 c 腸液 d 腸の運動 e 小腸における消化と吸収 D 消化管ホルモン E 排便	歯・口腔の構造と機能で出題する
10 排尿	A 尿の生成と体液の調節 B 排尿の仕組み	
11 内分泌	A ホルモン a 分泌調節 b 作用 B 内分泌器官の機能	

大項目	小項目	備考
12 体温	A 体温の調節 a 体熱の産生 b 体熱の放散 c 体温調節 B 体温の変動 a 体温の生理的変動 b 発熱・解熱	発汗を含む
13 生殖	A 女性の生殖機能 B 男性の生殖機能	
14 老化	A 老化の機序 B 老化に伴う機能変化	} 臨床歯科医学・高齢者の理解と歯科 } 治療から出題する

二 歯・口腔の構造と機能

(出題方針)

- 1 歯・口腔の構造およびその周囲組織に関する基本的知識を出題する。
- 2 歯・口腔の機能、組成に関する基本的知識を出題する。

I 歯・口腔の構造

大項目	小項目	備考
1 口腔・顎顔面・頭頸部	<p>A 頭頸部の体表</p> <p>B 口腔</p> <p> a 部位と区分</p> <p> b 口腔粘膜</p> <p> c 口唇・頬</p> <p> d 口蓋・口峽</p> <p> e 舌</p> <p>C 唾液腺</p> <p>D 鼻腔・副鼻腔</p> <p>E 咽頭・喉頭</p> <p>F 頭頸部の骨格系</p> <p> a 頭蓋骨</p> <p> b 縫合</p> <p> c 顎関節</p> <p>G 頭頸部の筋系</p> <p> a 顔面筋〈表情筋〉</p> <p> b 咀嚼筋</p> <p> c 頸部の筋</p> <p>H 頭頸部の脈管系</p> <p> a 動脈系</p> <p> b 静脈系</p> <p> c リンパ系</p> <p>I 頭頸部の神経系</p> <p> a 脳神経</p> <p> b 頭頸部の自律神経系</p>	<p>口腔前庭、固有口腔</p> <p>軟口蓋筋、口峽の筋を含む</p> <p>舌筋、味蕾を含む</p> <p>咽頭筋、喉頭筋を含む</p> <p>泉門を含む</p> <p>関節円板、靭帯を含む</p> <p>舌骨上筋・舌骨下筋群、胸鎖乳突筋、広頸筋</p> <p>総頸動脈、外頸動脈、顎動脈、顔面動脈、舌動脈</p> <p>扁桃を含む</p> <p>三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経</p>

二 歯・口腔の構造と機能

大項目	小項目	備考
2 歯と歯周組織	A 歯の形態 B 歯・歯周組織の構造 a エナメル質 b 象牙質・歯髄 c セメント質 d 歯根膜〈歯周靱帯〉・歯槽骨 e 歯肉 C 歯種・歯式 D 歯列・咬合	歯種別の形態的特徴を含む
3 口腔と顎顔面の発生と加齢	A 鰓弓〈咽頭弓〉 B 顔面と口腔の発生 C 歯・歯周組織の発生 D 口腔顎顔面の加齢変化	口蓋と舌の発生を含む 歯の喪失に伴う変化を含む

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

(出題方針)

- 1 病因と病態、感染と免疫および生体と薬物に関する基本的知識について出題する。
- 2 口腔領域の先天異常、嚢胞および腫瘍は「臨床歯科医学」においても出題する。
- 3 歯科臨床に用いる薬剤は「臨床歯科医学」、「歯科診療補助論」においても出題する。

I 病因と病態

大項目	小項目	備考
1 病因論	A 内因 B 外因	
2 遺伝性疾患と先天異常	A 染色体異常・遺伝子異常 B 先天異常	
3 細胞・組織の傷害	A 変性 B 萎縮 C 細胞死 a 壊死〈ネクローシス〉 b アポトーシス D 代謝障害	糖尿病、動脈硬化症および痛風を含む
4 循環障害	A 全身の循環障害 B 局所の循環障害 a 循環血液量の障害 b 閉塞性の障害	出血性素因（出血傾向）を含む
5 増殖と修復	A 肥大と増生〈過形成〉 B 化生 C 再生 D 創傷の治癒 E 異物の処理	
6 炎症	A 炎症の概念と徴候 B 炎症の原因 C 炎症の機序と病態 D 炎症の分類 a 急性炎症と慢性炎症 b 滲出性炎 c 増殖性炎と肉芽腫性炎	

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	小項目	備考
7 免疫異常と移植	A アレルギー反応〈過敏症〉 B 自己免疫疾患 C 免疫不全症候群 D 移植免疫	
8 腫瘍	A 腫瘍の概念と疫学 B 腫瘍の原因と発生・進展の機序 C 腫瘍の肉眼的・組織学的特徴 D 腫瘍の分類 <ul style="list-style-type: none"> a 上皮性腫瘍・非上皮性腫瘍・混合腫瘍 b 良性腫瘍・悪性腫瘍 c 前癌状態、前癌病変 	造血器腫瘍を含む 口腔潜在的悪性疾患を含む
9 歯の発育異常	A 大きさの異常 B 形の異常 C 数の異常 D 構造の異常 E 萌出の異常 F 位置の異常	
10 歯の損傷と色の異常	A 歯の損傷 B 色の異常	
11 う蝕	A エナメル質う蝕 B 象牙質う蝕 C セメント質う蝕	
12 象牙質、セメント質の増生	A 象牙質の増生と象牙 {質} 粒 <ul style="list-style-type: none"> a 第二象牙質 b 第三象牙質 c 象牙 {質} 粒 B セメント質の増生とセメント粒	

大項目	小項目	備考
13 歯髓の病変	A 歯髓充血 B 歯髓の変性 C 歯髓壊死 D 歯髓炎の分類と特徴 a 急性漿液性歯髓炎 b 急性化膿性歯髓炎 c 慢性潰瘍性歯髓炎 d 慢性増殖性歯髓炎 e 上行性歯髓炎 E 歯髓壊疽	
14 根尖部歯周組織の病変	A 根尖性歯周炎の分類と特徴 a 急性根尖性歯周炎 b 慢性根尖性歯周炎	
15 歯周組織の病変	A 歯周病の分類と特徴 a 歯肉病変 b 歯周炎 c 壊死性歯周疾患 d 歯周組織の膿瘍 e 歯周-歯内病変 f 歯肉退縮 g 咬合性外傷 B エプーリス	
16 口腔創傷の治癒	A 口腔粘膜傷の治癒 B 抜歯創の治癒	
17 口腔粘膜の病変	A 潰瘍を主徴とする疾患 B 水疱を主徴とする疾患 C 紅斑・びらんを主徴とする疾患 D 白斑を主徴とする疾患 E 色素沈着	

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	小項目	備考
18 顎骨の病変	A 炎症性疾患 B 嚢胞 a 歯原性嚢胞 b 非歯原性嚢胞 C 腫瘍・腫瘍類似病変 a 歯原性腫瘍 b 非歯原性腫瘍 c 腫瘍類似病変	骨折を含む 軟組織に発生する嚢胞を含む 軟組織に発生する腫瘍・造血器腫瘍を含む
19 唾液腺の病変	A 炎症性疾患 B 唾石症 C 粘液嚢胞 D 唾液腺腫瘍 E 自己免疫疾患	

II 感染と免疫

大項目	小項目	備考
1 一般性状	A 細菌 a 形態 b 構造 c 代謝 d 増殖 B ウイルス a 構造 b 増殖	
2 観察方法	A 培養法 a 細菌の培養法 b 細菌の培地 c ウイルスの培養法 B 細菌の顕微鏡観察法	

大項目	小項目	備考
3 感染	<p>A 微生物の病原性</p> <ul style="list-style-type: none"> a 毒素 b 菌体表層物質 c 組織破壊酵素 <p>B 宿主の抵抗性</p> <ul style="list-style-type: none"> a 体液中の抗菌物質 b 食細胞 c 炎症反応 d 補体系 e 抗体 f T細胞 g サイトカイン <p>C 感染の成立</p> <ul style="list-style-type: none"> a 感染と発症 b 不顕性感染 <p>D 感染経路</p> <ul style="list-style-type: none"> a 直接感染 b 間接感染 c 垂直感染 d 水平感染 <p>E 感染の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> a 日和見感染 b 内因感染 c 外因感染 d 院内感染 	
4 免疫	<p>A 免疫の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> a 自然免疫 b 獲得免疫 c 能動免疫 d 受動免疫 e 自己免疫〈免疫寛容〉 f 免疫不全 g 移植免疫 h 粘膜免疫 	<p>体液性免疫、細胞性免疫を含む</p>

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	小項目	備考
4 免疫	B 免疫関連臓器・細胞 C 抗原抗体反応 a 凝集反応 b 沈降反応 c 補体結合反応 d 毒素中和反応 e ウイルス中和反応 D アレルギー E 補体	I型、II型、III型、IV型
5 化学療法	A 化学療法薬 a 作用機序 b 抗菌スペクトル c 薬剤耐性 d 副作用 e ウイルスに対する化学療法	
6 病原微生物とプリオン	A グラム陽性球菌 B グラム陰性球菌 C グラム陽性桿菌 D グラム陰性桿菌 E スピロヘータ F リケッチア G クラミジア H マイコプラズマ I ウイルス a DNAウイルス b RNAウイルス J 真菌 K 原虫 L プリオン	

大項目	小項目	備考
7 口腔環境と常在微生物	A 微生物と口腔環境 a 常在菌叢 b 唾液 c 歯肉溝液 B 口腔常在微生物 a 口腔内レンサ球菌 b 歯垢微生物叢 c 唾液微生物叢 d 舌微生物叢 e 口腔粘膜微生物叢 f 歯肉溝微生物叢	
8 バイオフィルムとしてのプラーク〈歯垢〉	A 形成機序 B バイオフィルムとバイオフィルム感染症	
9 消毒・滅菌	A 定義 B 消毒法 C 滅菌法	具体的方法は歯科診療補助論で出題する
10 う蝕	A う蝕原因菌 a う蝕原性	
11 歯周病	A 歯周病原菌 a 歯周病原性	

Ⅲ 生体と薬物

大項目	小項目	備考
1 医薬品等の分類	<p>A 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律〈医薬品医療機器等法〉</p> <p>a 日本薬局方および局方医薬品</p> <p>b 医療用医薬品</p> <p>c OTC 医薬品 (要指導医薬品、一般医薬品)</p> <p>d 毒薬、劇薬</p> <p>e 麻薬、向精神薬</p> <p>f 医薬部外品、化粧品</p>	<p>医薬品には和漢薬を含む</p> <p>覚せい剤を含む</p>
2 医療と薬物	<p>A 薬物療法の種類</p> <p>B 薬理作用の基本形式</p> <p>C 薬理作用の分類</p>	
3 身体と薬物	<p>A 薬物の作用機序</p> <p>B 薬物の適用方法</p> <p>C 薬物動態</p> <p>a 吸収</p> <p>b 分布</p> <p>c 代謝</p> <p>d 排泄</p> <p>e 薬物動態パラメーター</p> <p>D 薬理作用に影響を与える因子</p> <p>a 薬物の用量と作用</p> <p>b 生体の感受性</p> <p>E 薬物の併用による相互作用</p> <p>a 協力作用・拮抗作用</p>	<p>生物学的半減期、バイオアベイラビリティ〈生物学的利用能〉、クリアランスを含む</p> <p>プラセボ効果を含む</p> <p>用量-反応曲線、治療係数を含む</p> <p>年齢、遺伝的素因等</p>

大項目	小項目	備考
	F 薬物の連用 a 蓄積 b 耐性 c 依存 G ライフステージと薬物 a 小児への薬物投与 b 高齢者への薬物投与 c 妊婦への薬物投与 H 薬物の副作用・有害作用 I 医療安全管理と対策	誤薬防止のための確認事項、医療関連感染対策、健康被害救済を含む
4 薬物の取り扱い	A 処方せん〈箋〉 B 保存方法 C 剤形	
5 中枢神経系作用薬物	A 全身麻酔薬 a 吸入麻酔薬 b 静脈麻酔薬 B 催眠薬 C 向精神薬 a 抗精神病薬 b 抗不安薬 c 抗うつ薬・抗躁薬 D 抗けいれん薬〈抗てんかん薬〉 E 抗パーキンソン病薬 F 中枢神経興奮薬 G 抗認知症薬	
6 末梢神経系作用薬物	A 神経伝達物質 B 自律神経系作用薬 C 筋弛緩薬	
7 局所麻酔薬	A 局所麻酔薬 B 血管収縮薬の添加	

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	小項目	備考
8 痛みと薬物	A 鎮痛薬 a 麻薬性鎮痛薬 b 非麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗薬 c 解熱性鎮痛薬 d 神経障害性疼痛治療薬	癌性疼痛を含む
9 抗炎症薬	A ステロイド性抗炎症薬 B 非ステロイド性抗炎症薬 C 抗ヒスタミン薬	抗アレルギー薬を含む
10 呼吸器・消化器・循環器と薬物	A 呼吸器系作用薬 B 消化器系作用薬 C 循環器系作用薬	抗高血圧薬を含む
11 血液と薬物	A 局所性止血薬 B 全身性止血薬 C 抗血栓薬 a 抗凝固薬 b 抗血小板薬	
12 感染と薬物	A 消毒薬 B 抗菌薬 C 抗真菌薬 D 抗ウイルス薬	抗結核薬を含む
13 免疫と薬物	A 免疫抑制薬	
14 代謝性疾患と薬物	A 糖尿病治療薬 B 骨粗鬆症治療薬	
15 悪性腫瘍と薬物	A 抗悪性腫瘍薬	

四 歯・口腔の健康と予防に関わる 人間と社会の仕組み

(出題方針)

- 1 歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進、疫学と歯科保健統計ならびに地域歯科保健活動に関する基本的知識について出題する。
- 2 人々をとりまく環境下で、また、社会生活・社会制度の下で、健康を保持増進するために必要となる基本的知識について出題する。
- 3 歯科衛生士として必要となる保健・医療・福祉の関連法規と制度について出題する。

I 総論

大項目	小項目	備考
1 概要	A 口腔保健と健康 B 歯科疾患の予防	第一次予防、第二次予防、第三次予防を含む
2 歯・口腔の発育と変化	A 歯・口腔の発生と成長発育 a 歯の形成 b 歯の萌出、交換 B 歯の喪失	
3 歯・口腔の機能	A 咀嚼 B 摂食嚥下 C 発音・構音 D 味覚、触覚、冷温覚	
4 口腔環境	A 歯と口腔環境 a 唾液の作用 b エナメル質の成熟 c ペリクルの形成 d 口腔内常在微生物	
5 歯・口腔の付着物、沈着物	A 歯の付着物、沈着物 B 舌苔	

Ⅱ 口腔清掃

大項目	小項目	備考
1 概要	A プラークコントロールの意義 B 口腔清掃の種類 a 口腔の自浄作用〈自然的清掃法〉 b 機械的清掃法 c 化学的清掃法	セルフケア、プロフェッショナルケアを含む
2 口腔清掃用具	A 歯ブラシの構成と種類 B 歯間部清掃用具 C その他の清掃用具	
3 歯磨剤	A 分類と剤形 B 基本成分と配合目的 C 薬効〈薬用、有効、特殊〉成分と配合目的	
4 洗口剤	A 組成と配合目的 B 薬効〈薬用、有効、特殊〉成分と配合目的	
5 ブラッシング	A ブラッシング法と特徴 B ブラッシングの為害作用 C 歯垢染色剤 D 舌・口腔粘膜の清掃方法	具体的な方法や術式等は歯科保健指導論で出題する

Ⅲ う蝕の予防

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A う蝕の有病状況 B う蝕の発生要因と機序 C 初期う蝕と再石灰化 D う蝕の進行と症状 E う蝕のリスク評価 a う蝕の活動性 b う蝕活動性試験	
2 予防方法	A 第一次予防 a プラークコントロール b 甘味飲食物に対する予防 c 生活習慣の改善 d フッ化物の応用 e う蝕予防処置 f 歯・口腔の健康診査、歯科保健指導、リコール B 第二次予防 a う蝕の検診 b 初期う蝕の進行抑制 c う蝕の治療 C 第三次予防 a 形態と機能の回復 D セルフケア、プロフェッショナルケア、パブリックヘルスケア	術式は歯科予防処置論で出題する
3 フッ化物によるう蝕予防	A フッ化物の分布 B フッ化物の摂取と代謝 C フッ化物の毒性 D う蝕予防機序	

四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

大項目	小項目	備考
3 フッ化物によるう蝕予防	E う蝕予防への全身応用 a 水道水フッリデーション 〈水道水フッ化物濃度調整〉 b 飲食物へのフッ化物添加 c フッ化物補充剤〈錠剤、液剤〉 F う蝕予防への局所応用 a フッ化物配合歯磨剤 b フッ化物洗口 c フッ化物歯面塗布 G う蝕予防効果	フッ化物局所応用の術式は歯科予防処置論で出題する う蝕抑制率の求め方についても出題する

IV 歯周病の予防

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A 歯周病の有病状況 B 歯周病の分類 C 歯周病の発生要因と機序 D 歯周病の進行と症状 E 歯周病のリスク評価 F 歯周病と全身との関連	
2 予防方法	A 第一次予防 a プラークコントロール b 歯周病の予防処置 c 歯・口腔の健康診査、歯科保健指導、リコール B 第二次予防 a 歯周病の検診 b 歯周基本治療 c 歯周外科治療	術式は歯科予防処置論で出題する

VI 環境・社会と健康

大項目	小項目	備考
1 概要	A 健康の概念と保持増進 B 予防の考え方と適用 C 生涯を通じた保健・福祉 a 生活習慣と健康・長寿 b ヘルスプロモーション c QOL d ノーマライゼーション e 国際生活機能分類〈ICF〉 f ソーシャルキャピタル D 健康づくり運動の変遷と現状	第一次予防、第二次予防、第三次予防 バリアフリー、ユニバーサルデザインを含む
2 人口	A 人口静態統計 B 人口動態統計 C 平均余命、平均寿命、健康寿命	人口の少子化・高齢化を含む 死亡原因を含む
3 環境と健康	A 地球環境と健康 B 生活環境と健康 a 空気と水 b 温熱環境および気候 c 環境への適応と居住環境 d 放射線 C 環境保全・公害防止 D 廃棄物処理	
4 疫学	A 疫学の定義 B 疾病・異常の発生要因 C 健康・疾病・異常の指標 D 疫学の研究方法 a 観察研究 b 介入研究 c 臨床疫学	記述疫学、分析疫学を含む

大項目	小項目	備考
	E 根拠に基づいた医療〈EBM〉 F スクリーニング	メタアナリシス, システマティック レビュー
5 感染症	A 感染症の成り立ちと予防 a 感染源、感染経路、宿主の 感受性 b 感染源対策、感染経路対策、 感受性対策 B 主要感染症の動向と予防 C 院内感染とその防止	予防接種を含む
6 生活習慣と生活習慣病	A ライフスタイル B 生活習慣病と非感染性疾患 〈NCDs〉 a 悪性新生物、心疾患、脳血管 疾患、糖尿病 C 生活習慣病の予防	
7 食品と健康	A 食中毒とその予防 B 食品の安全	
8 地域保健	A 地域社会と地域保健 B 地域保健の対象と活動 C 地域保健の組織と役割 D 地域包括ケアシステム E 保健所 F 市町村保健センター G 医療圏と保健医療計画 H 地域保健活動の進め方	
9 母子保健	A 母子保健の意義と特徴 B 母子保健活動の現状 C 母子保健対策 a 母子健康手帳 b 母子健康教育 c 健康診査と保健指導	

四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

大項目	小項目	備考
10 学校保健	A 学校保健安全の意義と特徴 B 保健教育、保健管理、組織活動 C 学校保健活動の現状 D 学校保健関係者 E 学校保健安全対策	
11 成人・高齢者保健	A 成人・高齢者保健の意義と特徴 B 成人・高齢者保健活動の現状 C 成人保健対策 a 特定健康診査・特定保健指導 b 健康教育、健康相談など D 高齢者保健福祉対策 E 要介護者保健福祉対策	新オレンジプランを含む
12 産業保健	A 産業保健の意義と特徴 B 安全衛生管理体制 C 作業管理、作業環境管理、健康管理 D 産業保健活動の現状 E 産業保健対策 a 一般健康診断と事後措置 b 特殊健康診断と事後措置 c 健康保持増進対策	トータルヘルスプロモーションプラン〈THP〉を含む
13 精神保健	A 精神保健の意義 B 精神保健活動の現状	
14 国際保健	A 国際機関の種類と活動 B 国際協力と国際交流 C 持続可能な開発目標〈SDGs〉	

Ⅶ 保健・医療・福祉の制度

大項目	小項目	備考
1 概要	A 衛生行政の目的 B 衛生行政の組織	
2 法規	A 法の分類 B 歯科衛生士法 C 歯科医師法 D 歯科技工士法 E 関連する医療関係者の身分に関する法規 F 医療に関する法規 G 薬事に関する法規 H 地域保健に関する法規 a 地域保健法 b 健康増進法 c 母子保健法 d 学校保健安全法 e 労働安全衛生法 f 高齢者の医療の確保に関する法律 g 歯科口腔保健の推進に関する法律	
3 医療の動向	A 医療施設 B 医療従事者 C 国民の受療状況 D 国民医療費	
4 社会保障	A わが国の社会保障制度 B 社会保険行政 C 医療保険制度 a 医療保険制度に関する法律	

四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

大項目	小項目	備考
4 社会保障	D 年金制度 E 雇用保険および労働者災害補償保険制度 F 介護保険制度 G 社会福祉行政 H 生活保護制度 I 児童と家庭の福祉制度 a 児童に関する法律 J 障害児者の福祉制度 a 障害児者の生活支援 b 障害児者に関する法律 K 高齢者の福祉制度 a 高齢者に関する法律	

VIII 歯科疾患の疫学と歯科保健統計

大項目	小項目	備考
1 歯科疾患の指標	A う蝕に関する指標 a う蝕経験の指標 b その他の指標 B 歯周病に関する指標 C 口腔清掃状態に関する指標 D 歯のフッ素症に関する指標 E 不正咬合に関する指標	
2 歯科疾患の疫学	A う蝕の疫学 a 宿主要因との関連 b 環境要因との関連 c 病因との関連 d 時間要因との関連	

大項目	小項目	備考
	B 歯周病の疫学 a 宿主要因との関連 b 環境要因との関連 c 病因との関連 C 歯の喪失の疫学 D 口腔の悪性新生物の疫学	
3 衛生統計の基礎	A 疫学調査の進め方 a 母集団と標本 b 標本調査 B データのまとめ方 a データの尺度 b 度数分布 c 代表値と散布度 d 単純集計、クロス集計 C データの分析法 a 推定と検定 b 相関 D 検定結果の解釈 a 標本平均値の差の検定 b カイ二乗検定	
4 歯科保健統計	A 国家統計調査の分類 B 歯科疾患実態調査 C 国民健康・栄養調査 D 学校保健統計調査 E 患者調査	歯科保健に関する調査について出題する

IX 地域歯科保健活動

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A 地域口腔保健活動の意義 B ライフステージ別の口腔保健の課題 C 地域口腔保健活動の進め方 D 口腔保健活動の目標 E 対象と活動分野 F 口腔保健教育 G 歯・口腔の健康診査と事後措置 H 地域特性の把握 I ヘルスプロモーション J ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ K 歯科衛生士の役割	
2 地域歯科保健	A 市町村と都道府県の歯科保健業務 B 保健所の歯科保健業務 C 市町村保健センターの歯科保健業務 D 8020 運動 E 国民健康づくり対策	歯の健康に関連する項目について出題する
3 母子歯科保健	A 母子歯科保健の意義 B 妊産婦の口腔保健 C 乳幼児の口腔保健 D 妊産婦・乳幼児の歯科健康診査と保健指導 E 1歳6か月児歯科健康診査と保健指導 F 3歳児歯科健康診査と保健指導	

大項目	小項目	備考
4 学校歯科保健	A 歯・口の健康づくりの領域と構造 a 保健教育 b 保健管理 c 組織活動 B 歯・口腔の健康診断と事後措置 C 学校歯科医	特別支援教育での保健管理を含む
5 産業歯科保健 〈職域口腔保健〉	A 職業性歯科疾患 a 歯の酸蝕症 B 産業歯科保健活動 a 産業歯科医 b 歯科健康診断 c トータルヘルスプロモーション プラン〈THP〉における歯科保健 活動 C 職域での口腔保健管理	特殊歯科健康診断を含む
6 成人・高齢者・要介護者・障害者歯科保健	A 成人・高齢者の歯科保健に関連する法律等に基づく保健事業 a 口腔の健康教育 b 口腔の健康相談 c 歯周疾患検診 d 介護予防 e 口腔保健に関する訪問指導 B 要支援・要介護者・障害者への 歯科保健	オーラルフレイルを含む 居宅療養管理指導を含む 介護保険法、介護予防を含む
7 災害時の歯科保健	A 大規模災害時の保健医療対策 B 被災地での歯科保健活動	
8 国際歯科保健	A 世界の歯科保健の現状 B 開発途上国への歯科保健医療協力	

五 歯科衛生士概論

(出題方針)

- 1 歯科衛生士の業務を実践するために必要な考え方、医療倫理、医療安全管理およびチームアプローチについて出題する。

I 歯科衛生士とその業務

大項目	小項目	備考
1 概要	A 健康と歯科衛生 B 歯科衛生士の歴史 C 歯科衛生士の現況 D 歯科衛生士法	口腔健康管理の定義を含む 就業状況、養成制度を含む
2 歯科衛生業務	A 歯科予防処置 B 歯科保健指導 C 歯科診療補助	
3 歯科衛生業務の進め方	A 歯科衛生業務を進めるための理論 B 歯科衛生業務展開の過程 a 情報収集 b 問題の明確化 c 計画立案 d 実施 e 評価 f 記録	コミュニケーションスキルを含む 業務記録、情報提供文書を含む
4 医療倫理	A 医の倫理 B 患者・家族との関係 a 患者の権利 b インフォームド・コンセント C 歯科衛生士の倫理綱領	患者の人権、守秘義務を含む 研究倫理を含む
5 医療安全管理	A 医療事故の防止 a 医療危機管理 〈リスクマネージメント〉 b ヒヤリハット、アクシデント B 感染予防対策 a 標準予防策 〈standard precautions〉 b 医療における廃棄物の取扱い C 歯科衛生士の役割	インシデント、医療事故報告書を含む 医療廃棄物の定義を含む

五 歯科衛生士概論

大 項 目	小 項 目	備 考
6 保健・医療・福祉 におけるチーム アプローチ	A 歯科衛生士の専門性 〈プロフェッショナリズム〉 B 歯科衛生活動の場 C 多職種連携	周術期の管理、地域包括ケアシステム、 災害支援を含む

六 臨床歯科医学

(出題方針)

- 1 歯科衛生士が業務を行うために必要となる歯科臨床に関する基本的知識について出題する。
- 2 歯科診療における共同動作に関連する事項は「歯科診療補助論」において出題する。
- 3 病因論等の歯科医学に関する知識については「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」および「歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会の仕組み」においても出題する。
- 4 口腔機能管理に関する知識、技能については「歯科診療補助論」から出題する。

II 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療

大項目	小項目	備考
1 保存修復治療	A 歯の硬組織疾患の種類と検査法 a う蝕とリスクファクター b う蝕以外の硬組織疾患 c 歯の変色・着色 d 高齢者の歯の硬組織疾患 e 歯の硬組織検査 B う蝕治療の流れ C 前準備 a 防湿法 b 歯間分離法 c 歯肉圧排法 d 隔壁法 D 修復法の種類と特徴 a 窩洞形成 b 直接修復 c 間接修復 d 象牙質知覚過敏処置 e 歯の漂白 f 補修修復 E 窩洞 a 窩洞の構成と名称 b 窩洞の分類 c 窩洞形態の条件 F 硬組織疾患の予防法 G 修復処置後の不快事項とメンテナンス	歯の損耗〈tooth wear〉 根面う蝕を含む 臨床歯科総論から出題する プレウエッジ法を含む 各材料の取扱いは歯科診療補助論で 出題する 歯科用レーザー装置を含む 非侵襲的修復法〈ART〉を含む ラミネートベニア修復を含む
2 歯内療法	A 歯髄疾患の種類と病態 B 根尖性歯周組織疾患の種類と病態 C 歯内-歯周疾患 D 歯髄検査	内部吸収を含む 歯根外部吸収を含む 臨床歯科総論から出題する

大項目	小項目	備考
2 歯内療法	<p>E 歯髄保存療法</p> <p> a 歯髄鎮静療法</p> <p> b 覆髄法</p> <p>F 歯髄除去療法</p> <p> a 生活断髄法〈生活歯髄切断法〉</p> <p> b 抜髄法</p> <p>G 根尖性歯周組織疾患の治療</p> <p>H 根管治療と治療に用いる器具・器材</p> <p> a 根管の機械的拡大・形成</p> <p> b 根管の化学的拡大・清掃</p> <p> c 根管長測定</p> <p> d 根管の消毒</p> <p> e 仮封</p> <p>I 根管充填</p> <p>J 根未完成歯の処置</p> <p> a アペキソゲネーシス</p> <p> b アペキシフィケーション</p> <p>K 外科的歯内療法</p> <p> a 根尖搔爬</p> <p> b 根尖切除</p> <p> c 歯根切断</p> <p> d 歯根分離</p> <p> e ヘミセクション</p> <p> f 歯の再植・移植</p> <p>L 外傷歯の治療</p> <p> a 歯の破折</p> <p> b 歯の脱臼</p> <p>M 歯内療法における安全対策</p>	<p>非侵襲性（暫間的）間接覆髄法（AIPC法）を含む</p> <p>名称、症例および各療法の目的について出題する</p>

Ⅲ 歯の欠損と治療

大項目	小項目	備考
1 概要	<p>A 補綴治療の基礎</p> <p>a 歯列と基準平面</p> <p>b 咬合様式・咬合</p> <p>c 咀嚼</p> <p>d 発音・構音</p> <p>e 顎堤、粘膜、舌、唾液</p> <p>f 下顎運動と下顎位</p> <p>g 歯の喪失に伴う変化</p> <p>B 補綴治療の種類と材料</p> <p>a 有床義歯（全部床義歯・部分床義歯）</p> <p>b クラウンブリッジ</p> <p>c インプラント義歯</p> <p>C 補綴装置の維持・支持・把持・安定</p> <p>D 補綴治療の流れ</p> <p>a 印象採得</p> <p>b 顎間関係の記録〈咬合採得〉</p> <p>c 咬合器装着</p> <p>d 試適</p> <p>e 補綴装置装着</p> <p>E CAD/CAM システムによる治療</p>	
2 有床義歯 〈可撤性補綴装置〉	<p>A 義歯床</p> <p>B 人工歯</p> <p>C 支台装置〈維持装置〉</p> <p>D 連結子〈連結装置〉</p> <p>E リコール、メンテナンスと修理</p>	<p>取扱い方法とリライン、リベースを含む</p>
3 支台築造	<p>A 直接法</p> <p>B 間接法</p>	

大項目	小項目	備考
4 クラウン	A 全部被覆冠 B 部分被覆冠 C プロビジョナルレストレーション D リコールとメンテナンス	前装部の修理を含む
5 ブリッジ 〈固定性補綴装置〉	A ブリッジの特徴 B ブリッジの構成 C プロビジョナルレストレーション D リコールとメンテナンス	前装部の修理を含む
6 インプラント義歯	A インプラント義歯の特徴 B インプラント義歯の構成 C リコールとメンテナンス	

IV 顎・口腔領域の疾患と治療

大項目	小項目	備考
1 顎口腔領域の疾患	A 先天異常と発育異常 a 歯と口腔軟組織の異常 b 口唇裂・口蓋裂 c 顎変形症 B 損傷 a 歯の外傷 b 軟組織の損傷 c 歯槽骨骨折 d 顎骨骨折	

大項目	小項目	備考
1 顎口腔領域の疾患	<p>C 口腔粘膜疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> a 潰瘍を主徴とする疾患 b 水疱を主徴とする疾患 c 紅斑・びらんを主徴とする疾患 d 白斑を主徴とする疾患 e 色素沈着 f 口腔乾燥 <p>D 炎症</p> <ul style="list-style-type: none"> a 歯槽部の炎症 b 顎骨の炎症 c 顎骨周囲組織の炎症 <p>E 嚢胞</p> <ul style="list-style-type: none"> a 顎骨に発生する嚢胞 b 軟組織に発生する嚢胞 <p>F 腫瘍・腫瘍類似疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> a 良性腫瘍 b 悪性腫瘍 c 腫瘍類似疾患 <p>G 顎関節疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> a 顎関節脱臼 b 顎関節症 c 顎関節強直症 <p>H 唾液腺疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> a 唾液腺炎 b 流行性耳下腺炎 c 唾石症 d 唾液腺腫瘍 e Sjögren 症候群 <p>I 神経系疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> a 三叉神経痛 b 三叉神経麻痺 c 顔面神経麻痺 d オーラルディスキネジア 	<p>ドライソケットを含む 上顎洞炎、薬物関連顎骨壊死を含む</p>

大項目	小項目	備考
	J 血液疾患 a 貧血 b 白血病 c 血友病 d 特発性血小板減少性紫斑病 e 播種性血管内凝固症候群〈DIC〉 K 口腔〈歯科〉心身症 a 舌痛症 b 歯科治療恐怖症	
2 口腔外科治療	A 抜歯 B 消炎手術 C 止血処置 D 歯槽骨整形術 E 根尖切除術 F 嚢胞摘出術・嚢胞開窓術 G 歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術 H 口腔インプラント手術 I 放射線治療 J 抜歯および術中・術後の局所的偶発症 K 周術期の口腔健康管理	埋伏歯の抜歯を含む 非観血的治療、顎間固定を含む 副作用（口腔有害事象）を含む 放射線療法、化学療法を含む
3 麻酔	A 局所麻酔 a 表面麻酔 b 浸潤麻酔 c 伝達麻酔 B 精神鎮静法 a 吸入鎮静法 b 静脈内鎮静法 C 全身麻酔 a 吸入麻酔 b 静脈麻酔	麻酔時の局所的・全身的偶発症を含む

大項目	小項目	備考
4 全身管理と モニタリング	A バイタルサイン B 経皮的動脈血酸素飽和度 〈SpO ₂ 〉 C 意識レベル D 歯科治療時の全身的偶発症 a 神経原性ショック b 過換気症候群 c アナフィラキシーショック d 低血糖 e 高血圧緊急症 f 脳血管障害 g 誤飲および誤嚥	臨床歯科総論から出題する 歯科診療補助論から出題する
5 救命救急処置	A 一次救命処置 B 二次救命処置	} 歯科診療補助論から出題する

V 不正咬合と治療

大項目	小項目	備考
1 概要	A 顎顔面の成長発育 a 顎の成長発育 b 顔面の成長発育 c 歯・歯列の成長発育 d 口腔機能の発達 e 成長発育の評価 B 正常咬合 a 成立の条件と種類	

大項目	小項目	備考
	C 不正咬合 a 歯の位置の異常 b 歯列弓形態の異常 c 上下顎歯列弓関係の異常 d 不正咬合の分類 e 不正咬合の原因 f 不正咬合の予防 D 不正咬合による障害 a 生理的障害 b 心理的障害	
2 矯正歯科治療の流れ	A 種類と時期 B 診断と説明・同意 a 検査 b 検査資料の分析 C 矯正歯科治療 a 適切な矯正力 b 歯の移動様式 c 固定 d 歯の移動に伴う組織変化 e 口腔筋機能の回復 f 矯正歯科治療と抜歯 g 成人矯正歯科治療 h 外科的矯正歯科治療 D 保定 E 治療中の管理・リスク	臨床歯科総論から出題する 顎整形力についても出題する
3 矯正装置	A 器械的装置 B 機能的装置 C 保定装置	} 固定式・可撤式装置、顎内・顎外固定装置の違いについても出題する

VI 小児の理解と歯科治療

大項目	小項目	備考
1 概要	<p>A 小児の成長発育</p> <p> a 成長発育の特徴</p> <p> b 小児期の分類</p> <p> c 身体の発育</p> <p> d 生理的年齢</p> <p> e 器官の発育形式</p> <p>B 小児の機能の発達</p> <p> a 運動機能</p> <p> b 感覚機能</p> <p> c 発音・構音機能</p> <p> d 摂食嚥下機能</p> <p>C 情緒、社会性の発達</p> <p>D バイタルサインと生理的特徴</p> <p>E 顎顔面と頭蓋の成長発育</p> <p>F 歯の形成</p> <p>G 歯の萌出・交換</p> <p>H 歯列、咬合の成長発育</p> <p>I 乳歯、幼若永久歯の特徴</p> <p> a 乳歯の特徴</p> <p> b 幼若永久歯の特徴</p>	<p>概要において、口腔機能については 歯科診療補助論から出題する</p> <p>発育状態の評価を含む</p> <p>哺乳、口腔機能発達不全症を含む</p> <p>臨床歯科総論から出題する</p>

大項目	小項目	備考
2 小児の疾病異常	A 先天性疾患、先天異常 B 顎口腔の疾患 a 感染性疾患 b 歯の異常と疾患 c 乳歯、幼若永久歯のう蝕 d 乳歯、幼若永久歯の歯髄疾患、 根尖性歯周組織疾患 e 歯周疾患 f 軟組織疾患 g 外傷 h 口腔機能発達不全症	口唇・口蓋裂、外胚葉異形成症、鎖骨 頭蓋異形成症を含む 酸蝕症を含む
3 小児患者の評価と対応	A 行動の特徴と情動変化 B 小児の生活環境の評価 C 小児患者への歯科的対応	虐待を含む
4 小児の歯科治療	A 検査 B 薬物投与 C 応急処置 D 歯冠修復処置 E 歯内療法処置 F 歯周疾患の処置 G 口腔外科処置 H 外傷の処置 I 咬合誘導 a 保隙 b 能動的咬合誘導 c 口腔習癖などの対応 J 口腔健康管理 K 医療安全	臨床歯科総論から出題する 口腔機能訓練については歯科診療補助 論から出題する 局所麻酔の合併症・偶発症を含む

VII 高齢者の理解と歯科治療

大項目	小項目	備考
1 高齢社会	A 社会環境 a 人口の推移 b 死亡原因 c ノーマライゼーション d 高齢者のQOL B 高齢者のための社会保障制度	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みから出題する 老年人口割合等 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みから出題する
2 加齢変化	A 加齢と老化 B 各器官、各組織の老化 C 身体機能の老化 D 精神・心理的变化 E 口腔領域の加齢変化 a 歯・骨 b 口腔粘膜と歯周組織 c 唾液腺と唾液分泌 d 口腔感覚 e 摂食嚥下機能	サルコペニア、フレイルを含む 知的機能の変化、認知機能障害を含む オーラルフレイル、摂食嚥下障害を含む
3 高齢者の歯科医療	A 患者本人と取り巻く環境の把握 a 生活環境 b 全身状態 c 精神・心理的状況 B 歯科治療時に注意すべき全身疾患 a 高血圧 b 心疾患 c 糖尿病 C 注意すべき薬剤 D 患者指導・介護者指導	照会状・医療情報・プロブレムリストを含む

大項目	小項目	備考
4 生活機能を低下させる疾患・症候	A 生活機能を低下させる全身疾患 a 脳血管疾患 b 認知症 c 神経・筋疾患 d 廃用症候群 e 骨・関節疾患 f 骨折 B 注意すべき薬剤 C 患者指導・介護者指導	
5 通院困難者の病態と処置法	A 歯科訪問診療 a 要介護高齢者の治療 b 在宅患者の治療 c 入院患者の治療 d 終末期患者の治療 e 歯科訪問診療用器材 f 歯科衛生士の役割と多職種連携 B 口腔健康管理 a 口腔機能の維持・向上 b 介護予防 c 多職種連携 C 栄養管理 D 服薬管理	歯科診療補助論から出題する 歯科保健指導論から出題する 和漢薬、ポリファーマシーを含む
6 高齢者の摂食嚥下障害と口腔機能低下症への対応	A 摂食嚥下障害 a メカニズム b 器質的障害と機能的障害 c 間接訓練と直接訓練 d 食環境・食内容 e 経管栄養 f 補綴的対応 g 食支援・摂食介助法 h 口腔衛生管理	} 歯科診療補助論から出題する } 歯科保健指導論から出題する 義歯の着脱、舌接触補助床、軟口蓋挙上装置など

大項目	小項目	備考
6 高齢者の摂食嚥下障害と口腔機能低下症への対応	B 誤嚥性肺炎 a 原因 b 口腔健康管理 C 口腔機能低下症 a 評価法 b 対応	

VIII 障害児者の理解と歯科治療

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A 障害の概念 a ノーマライゼーション b バリアフリー c 国際生活機能分類〈ICF〉 d QOL e 障害のある人の社会・医療・福祉制度 f 障害の発生と受容 g 地域医療と障害者歯科 h 医療的ケア児 i 虐待	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みで出題する
2 障害の種類と歯科的特徴	A 精神発達・心理的発達と行動障害 a 知的障害（知的能力障害） b 自閉スペクトラム症〔自閉症スペクトラム障害〈ASD〉〕 c 注意欠如・多動症〔注意欠陥多動性障害〈ADHD〉〕 d 限局性学習症〔学習障害〈LD〉〕	

大項目	小項目	備考
	B 神経・運動障害 a 脳性麻痺 b 重症心身障害 c 筋ジストロフィー d 脊髄損傷 e 関節リウマチ f 脳血管障害 g 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉 h Parkinson 病 i てんかん C 感覚障害 a 視覚障害 b 聴覚障害 D 発音・構音障害 E 精神及び行動の障害 a 統合失調症 b うつ病 c 心身症 d 認知症 e 摂食障害 F 染色体異常に伴う障害 G 摂食嚥下障害	歯科診療補助論から出題する
3 障害児者の歯科治療	A 行動調整 a コミュニケーション法 b 行動療法 c 薬物的行動調整法 d 体動の調整法 B リスク評価と安全管理 a リスク評価 b 医療安全管理体制	治療への導入を含む 治療中の患者のコントロール、開口補助の方法を含む 常用薬の管理を含む

六 臨床歯科医学

大項目	小項目	備考
4 障害児者に対する口腔衛生管理	A 障害児者に対する口腔衛生管理の意義と目的 B セルフケア向上のための支援 C 介助者による口腔清掃	環境別指導も含む
5 障害児者の摂食嚥下障害と口腔機能管理	A 摂食嚥下障害の口腔機能管理の意義と目的 B 評価法 C 栄養管理 D 食支援・摂食介助法 E 機能訓練法	} 歯科診療補助論から出題する } 歯科保健指導論から出題する } 歯科診療補助論から出題する

七 歯科予防処置論

(出題方針)

- 1 歯科予防処置に関する知識、技能および対応について出題する。

I 総論

大項目	小項目	備考
1 概要	A 歯科予防処置の法的位置づけ B 歯周病予防 C う蝕予防	根面う蝕を含む
2 対象者の把握	A 全身状態 B 生活習慣 C ライフステージの特徴	
3 歯・口腔の健康状態の把握	A 歯・口腔 B 歯周組織 C 付着物・沈着物	
4 プラークコントロール	A 歯周病予防 B う蝕予防	

II 歯周病予防処置

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A 歯周病と生活習慣の関連 B 歯周病と全身疾患の関連 C 歯周病のリスク	
2 情報収集と評価	A 口腔内写真・エックス線画像の観察と評価 B 歯・歯周組織の検査と評価 a 歯肉の炎症の評価 b プロービング c アタッチメントレベル d プロービング時の出血〈BOP〉と歯肉出血インデックス〈GBI〉 e 根分岐部病変の有無と程度	歯周病に関連する指標を含む

七 歯科予防処置論

大項目	小項目	備考
2 情報収集と評価	C プラーク・歯石の検査 D 歯の動揺度 E 検査結果の評価 F 歯周予防処置計画	プラークの指標を含む
3 スケーリング・ルートプレーニング	A 使用機器・器具の種類と特徴 a 手用スケーラー b 超音波スケーラー c エアスケーラー B 操作方法 C 歯周ポケット内洗浄 D シヤープニング	
4 歯面清掃・歯面研磨	A 使用機器・器具・材料の種類 B 操作方法	
5 メインテナンス	A 目的 B 評価	

Ⅲ う蝕予防処置

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A う蝕と生活習慣の関連 B う蝕と全身疾患の関連 C う蝕予防処置の安全性	
2 情報収集と評価	A う蝕のリスク検査・評価 B う蝕予防処置計画	
3 フッ化物応用によるう蝕予防	A フッ化物歯面塗布 a 使用薬剤の種類と取扱い b 適応症 c 塗布の方法と術式 d 実施上の注意	塗布前後の指導を含む

大項目	小項目	備考
	B フッ化物洗口 a 使用薬剤の種類と取扱い b 適応症 c 実施場所と洗口方法 d 実施上の注意 C フッ化物配合歯磨剤 a フッ化物の種類 b 使用法 D ライフステージに応じたフッ化物 応用	
4 小窩裂溝填塞	A 填塞材の種類・特徴 B 適応症 C 術式 D 実施上の注意	填塞前後の指導を含む
5 メインテナンス	A 目的 B 評価	

八 歯科保健指導論

(出題方針)

- 1 歯科保健指導に関する知識、技能および対応について出題する。

I 総論

大項目	小項目	備考
1 概要	A 歯科保健指導の意義と目的 a 個人対象 b 集団対象 B 歯科保健指導・健康教育の進め方 a 情報収集 b 問題の明確化 c 計画立案 d 実施 e 評価 C 業務記録	情報提供文書を含む
2 基礎知識	A 信頼関係の構築 B コミュニケーションスキル C 保健行動の支援 a 行動変容の手法	ハイリスクアプローチ・ポピュレーションアプローチを含む

II 情報収集

大項目	小項目	備考
1 個人	A 全身的な健康状態の把握 a 器質的、機能的問題の把握 b 服薬 B 認知および精神状態の把握 C 生活環境と生活背景の把握 a 社会構造・生活環境の変化 b 虐待	フレイルを含む

大項目	小項目	備考
1 個人	<p>D 生活習慣の把握</p> <p>a 食習慣、喫煙、飲酒、睡眠、運動、ストレス</p> <p>b 保健行動</p> <p>c 受療行動</p> <p>E 口腔の器質的、機能的問題の把握</p> <p>a 口腔疾患、異常</p> <p>b 口腔衛生状態、リスク評価</p> <p>c 口腔機能</p>	<p>生活・ADLの評価を含む</p> <p>歯・口腔の健康状態の把握は歯科予防処置論で出題する</p> <p>発達、口腔機能低下症、口腔機能発達不全症を含む</p>
2 集団・組織・地域	<p>A 集団・組織・地域の特性の把握</p> <p>a 集団・組織・地域の現状</p> <p>b 口腔保健ニーズの把握</p>	<p>地域歯科保健活動、公衆衛生活動を含む</p>

Ⅲ 口腔衛生管理

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	<p>A 口腔清掃用具</p> <p>a 歯ブラシ</p> <p>b 歯間部清掃用具</p> <p>c 舌・口腔粘膜の清掃用具</p> <p>B 歯磨剤・洗口剤・保湿剤</p>	<p>電動歯ブラシを含む</p> <p>フッ化物配合歯磨剤は歯科予防処置論から出題する</p>

大項目	小項目	備考
2 指導の要点	A 口腔衛生状態、リスク評価 B 指導内容 a ブラッシング法の選択 b 歯ブラシの選択と使用法 c 歯間部清掃用具の選択と使用法 d 舌・口腔粘膜清掃用具の選択と使用法 e 歯磨剤・洗口剤・保湿剤の選択と使用法	清掃用具による為害作用を含む
3 対象別の指導	A ライフステージに対応した指導 B 口腔状況に応じた指導 C 配慮を要する者への指導	} 歯科予防処置論、歯科診療補助論 } から出題する

IV 生活習慣指導

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A 口腔保健と生活習慣 B 口腔保健と非感染性疾患〈NCDs〉	
2 指導の要点	A 生活習慣の指導・支援 a 非感染性疾患〈NCDs〉 b 禁煙支援 c ストレスマネジメント	受療行動を含む
3 対象別の指導	A ライフステージに応じた指導 B 疾患・異常のリスクに応じた指導 C 配慮を要する者への指導	歯の損耗〈tooth wear〉の予防を含む

V 食生活指導

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> A 栄養素 <ul style="list-style-type: none"> a 5大栄養素とその働き B 食品 <ul style="list-style-type: none"> a 食品成分表 b 食品群 c 保健機能食品 d 食品添加物 C 食生活の概要 <ul style="list-style-type: none"> a 食生活と健康との関連 b 国民健康・栄養調査 c 食育と食育基本法 d 食事摂取基準 e 食生活指針 D 栄養・食生活と健康との関連 <ul style="list-style-type: none"> a 低栄養 b 全身の健康との関連 c 歯の成長・発育との関連 d 歯科疾患との関連 	<p>物性を含む</p> <p>特別用途食品を含む</p> <p>食事バランスガイドを含む</p> <p>フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、オーラルフレイルを含む</p> <p>妊娠期の栄養を含む</p>
2 指導の要点	<ul style="list-style-type: none"> A 栄養状態の把握 B 口腔衛生・口腔機能との関連 C 食生活・食事記録 D 食支援 <ul style="list-style-type: none"> a 食事内容 b 咀嚼と栄養摂取の関連 	<p>形態、量、回数など</p> <p>咀嚼習慣と肥満の関連を含む</p>

大項目	小項目	備考
3 対象別の指導	A ライフステージに応じた指導 B 配慮を要する者への指導 a 妊産婦 b 全身疾患のある者 c 障害児者 d 要介護者 e 摂食嚥下障害のある者 f 入院患者 C 障害児者・要介護者の食事介助	授乳・離乳の指導を含む 周術期の対応を含む 食形態、食事姿勢、嚥下食への対応を含む

VI 健康教育

大項目	小項目	備考
1 健康教育の要点	A 健康教育の概要（推進） B 健康教育の進め方 C 健康教育の方法 a 受動的・能動的な方法 b 媒体（教材）の活用 D 健康教育の評価	体験学習型形式を含む マスメディアの活用を含む
2 健康教育の対象	A 保育所、幼稚園 a 乳幼児 b 保護者 c 保育士、教員等 B 学校 a 児童・生徒・学生 b 保護者 c 教員 C 事業所 a 労働者 b 衛生管理者等	

八 歯科保健指導論

大項目	小項目	備考
2 健康教育の対象	D 保健所、市町村保健センター a 住民 b 他の専門職 E 地域・病院・施設	地域支援事業、介護予防事業を含む

九 歯科診療補助論

(出題方針)

- 1 歯科診療補助に関する知識、技能および対応について出題する。

I 総論

大項目	小項目	備考
1 概要	A 歯科診療補助の範囲と業務 B チーム歯科医療の考え方 a 歯科医師との連携 b 多職種との連携 C 歯科訪問診療	在宅、医療機関、介護施設を含む
2 情報収集	A 全身状態の把握 B 口腔内状態の把握	モニターの取扱いを含む
3 患者への対応	A 一般的対応 B 配慮を要する者への対応 a 高齢者 b 妊産婦 c 全身疾患を有する者 d 通院困難者	治療時の具体的な対応について出題する 感染症患者を含む
4 診療時の共同動作	A 共同動作の基本 B 術者・補助者・患者の位置と姿勢 C フォーハンド D バキュームテクニック	照明やライティングを含む 器具の受け渡しを含む
5 診療設備の管理	A 歯科用ユニット B エックス線撮影装置 C 歯科用レーザー装置 D 酸素吸入器 E 口腔外バキューム装置 F 薬品、歯科材料の管理	エアータービン、マイクロモーターを含む
6 消毒・滅菌	A 消毒・滅菌の定義 B 消毒・滅菌の種類と効能 C 消毒法 a 消毒薬の種類・用途および濃度 b 手指消毒	洗浄も含む 在宅診療での器具の取扱いを含む 消毒薬の効果の持続を含む

大項目	小項目	備考
6 消毒・滅菌	D 滅菌法 a 高压蒸気滅菌法 b エチレンオキサイドガス滅菌法 c 低温プラズマ滅菌 d 乾熱滅菌 E 消毒・滅菌済み器材の管理	

II 主要歯科材料の種類と取扱いと管理

大項目	小項目	備考
1 模型用材料	A 歯科用石膏の種類と用途 a 普通石膏 b 硬質石膏 c 超硬質石膏	基本的性質を含む
2 合着・接着・仮着用材料	A リン酸亜鉛セメント B グラスアイオノマーセメント C ポリカルボキシレートセメント D 接着性レジンセメント E 仮着用セメント	基本的性質、取扱いおよび管理を含む
3 印象用材料	A アルジネート印象材 B 寒天印象材 C 合成ゴム質印象材 D 酸化亜鉛ユージノール印象材 E モデリングコンパウンド	
4 歯冠修復用材料	A コンポジットレジン B グラスアイオノマーセメント C セラミックス	強化型グラスアイオノマーセメントを含む

大項目	小項目	備考
5 仮封用材料	A テンポラリーストッピング B セメント系仮封材 C 水硬性仮封材 D レジン系仮封材	
6 その他の材料	A ワックス B 義歯用材料 C インプラント用材料	

Ⅲ 保存治療時の歯科診療補助

大項目	小項目	備考
1 前準備	A 器材の準備と取扱い a 防湿法 b 歯間分離法 c 歯肉圧排法 d 隔壁法	
2 窩洞形成	A 切削用器具・器材の取扱いと管理	歯科用レーザー装置、エアブレイシブ、化学的溶解法を含む
3 直接修復	A 直接修復の器材準備と取扱い a 材料の準備 b 填塞用器具の準備 c 接着システム d 光照射用器具の取扱い e 研磨 B 治療後の注意	

九 歯科診療補助論

大項目	小項目	備考
4 間接修復	A 間接修復の器材準備と取扱い a 印象採得 b 顎間関係の記録〔咬合採得〕 c 装着 d 後処置 B 治療後の注意	修復物の試適、咬合調整を含む 余剰セメントの除去を含む
5 歯の漂白	A 漂白法の種類と器材の準備 a 有髄歯の漂白 b 無髄歯の漂白 B 治療後の注意	オフィスブリーチ法、ホームブリーチ法の手順を含む
6 歯髄処置	A 歯髄処置用器材・薬剤の準備と取扱い B 電気歯髄診断器の取扱い	
7 根管処置	A 根管処置用器材・薬剤の種類と取扱い B 根管長測定器の取扱い C 根管充填用器材・薬剤の種類と取扱い D 治療後の注意	
8 外科的歯内療法	A 外科的歯内療法の器材と取扱い	
9 歯周外科治療	A 歯周外科治療用器材・薬剤の種類と用途 B 歯周用パットの種類と取扱い	

IV 補綴治療時の歯科診療補助

大項目	小項目	備考
1 検査	A 各種検査の準備	咬合音検査、ゴシックアーチ描記法、チェックバイト法、平行測定法を含む
2 印象採得	A 印象採得に用いる器材準備と取扱い	
3 顎間関係の記録	A 顎間関係の記録に用いる器材準備と取扱い	咬合床の取扱い、咬合採得、顔弓操作、咬合器装着を含む
4 プロビジョナルレストレーション	A プロビジョナルレストレーションに用いる器材準備と取扱い	
5 補綴装置の装着	A 有床義歯装着時の器材と準備 B クラウンブリッジ装着時の器材と準備 C 装着後の注意	ろう義歯の試適を含む

V 口腔外科治療時の歯科診療補助

大項目	小項目	備考
1 抜歯	A 抜歯用器材の準備と取扱い B 抜歯後の注意	
2 小手術	A 小手術用器材の準備と取扱い	
3 止血処置	A 止血法の種類 B 止血薬の種類と取扱い	
4 縫合	A 縫合用器材の種類と準備・取扱い	
5 麻酔	A 局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取扱い B 精神鎮静法時の器材・薬剤の準備と取扱い	笑気吸入鎮静法の準備、静脈内鎮静法の準備、酸素投与を含む

大項目	小項目	備考
5 麻酔	C 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助	静脈路の確保と点滴の準備を含む
6 患者管理	A 周術期の口腔健康管理 a 外来患者 b 入院患者	

VI 矯正歯科治療時の歯科診療補助

大項目	小項目	備考
1 器具・材料	A 矯正歯科用器材の種類と取扱い	
2 検査	A 口腔内・顔面写真の撮影 B 頭部エックス線規格写真のトレース C 口腔模型の作製	
3 装置の装着	A 接着材の種類、用途と取扱い B 帯環〈バンド〉の種類と取扱い C ワイヤの種類、用途と取扱い D ブラケットの種類、用途と取扱い E 結紮に必要な器具と取扱い F 装置装着者への指導	
4 装置の撤去	A 撤去に必要な器材の種類、用途と取扱い B 歯面研磨	デイベンディングの手順を含む

VII ライフステージに応じた歯科診療補助

大項目	小項目	備考
1 妊産婦の歯科治療	A 対象者の状態把握と対応	
2 小児の歯科治療	A 小児の状態把握と対応 B 必要な器材・薬剤の準備	
3 成人の歯科治療	A 対象者の状態把握と対応	
4 高齢者の歯科治療	A 対象者の状態把握と対応 B 診療の場 a 外来診療 b 歯科訪問診療 C 必要な器材・薬剤の準備	
5 障害児者の歯科治療	A 対象者の状態把握と対応 a 危険の予測と管理 b 治療への導入 c 治療中の患者コントロール B 診療の場 a 外来診療 b 歯科訪問診療 C 必要な器材・薬剤の準備	行動療法を含む

VIII エックス線写真撮影時の歯科診療補助

大項目	小項目	備考
1 器具・材料	A エックス線撮影装置の準備 B 口内法・パノラマエックス線撮影装置、デジタル画像システム	頭部エックス線規格撮影装置を含む

大項目	小項目	備考
2 口内法撮影	A 頭部の固定 B フィルムの位置・固定 a 二等分法と平行法 b 咬翼法と咬合法 c 正放線投影と偏心投影	
3 写真の処理と管理	A 写真処理と画像管理	フィルム・データの処理と保管について出題する
4 放射線の人体への影響と防護	A 放射線の人体への影響 B 防護の実際 C 被曝線量の測定	

IX 救命救急処置

大項目	小項目	備考
1 全身管理とモニタリング	A バイタルサインの把握 B 意識レベルの把握 C モニタリング	体温・脈拍・血圧・心機能・経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO ₂) の測定 呼吸 (呼吸数、SpO ₂)・循環 (脈拍、血圧) のモニタリング、心電図 (II誘導) の電極装着を含む
2 救命救急処置	A 一次救命処置 a 気道確保 b 人工呼吸 c 胸骨圧迫 B 二次救命処置 a 酸素療法 b 静脈路の確保と点滴法 C AED の取扱い	救急蘇生法の基礎知識を出題する

大項目	小項目	備考
	D 全身的偶発症への対応 a 神経原性ショック b 過換気症候群 c アナフィラキシーショック d 低血糖 e 高血圧緊急症 f 脳血管障害 g 誤飲および誤嚥	

X 口腔機能管理

大項目	小項目	備考
1 基礎知識	A 口腔機能管理の意義と目的 B 口腔機能の種類 a 摂食嚥下機能 b 発音・構音機能 c 運動機能 d 感覚機能 e 唾液分泌機能 C 口腔機能と関連する組織・器官 D 成長と発育 a 顎・顔面 b 歯・歯列 c 口腔機能 E リハビリテーション F 全身疾患との関連 G 歯科衛生士の役割と多職種連携	咬合、下顎運動と舌運動を含む 味覚を含む 咬合と下顎運動を含む リスクマネジメントを含む NST、地域包括ケアシステム・地域連携を含む

大項目	小項目	備考
2 評価	A 口腔機能の評価 a 正常 b 低下・障害・不全 c 亢進 B 歯科治療の必要性	
3 機能障害別の対応法	A 摂食嚥下障害 a メカニズム b 摂食嚥下障害の要因 c 間接訓練と直接訓練 d 食事環境・食物形態 e 摂食介助法 f 食事の観察 g 口腔衛生管理 B 発音・構音機能訓練	リハビリテーションを含む ミールラウンドを含む 歯石除去、PTCは歯科予防処置で出題する リハビリテーションを含む
4 対象別の指導法	A ライフステージに対応した指導 a 乳幼児・小児 b 成人 c 高齢者 d 障害児者 B 配慮を要する者への指導 a 全身疾患を有する者 b 緩和ケア・ターミナルケア	発達期、口腔筋機能療法(MFT)、口腔機能発達不全症を含む 口腔機能低下症を含む オーラルフレイルを含む 周術期の対応を含む

索引

*太字の大項目は小項目を含めた索引です

〈ア〉

悪性腫瘍と薬物 28
アルジネート印象材 86
アレルギー 24
アレルギー反応〈過敏症〉 20
安全衛生管理体制 38

〈イ〉

意識レベル 60
意識レベルの把握 92
萎縮 19
移植免疫 20
痛みと薬物 28
一次救命処置 60, 92
1歳6か月児歯科健康診査と保健指導 42
一般性状 22
一般体性感覚器の構造 4
一般的対応 85
一般臨床検査 52
遺伝子異常 19
遺伝子とタンパク質合成 6
遺伝性疾患と先天異常 19
胃における消化 8
医の倫理 47
異物の処理 19
医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律〈医薬品医療機器等法〉 26
医薬品等の分類 26
医療安全 63
医療安全管理 47
医療安全管理と対策 27
医療圏と保健医療計画 37
医療事故の防止 47
医療施設 39
医療従事者 39
医療情報の収集 51
医療と薬物 26
医療に係る法規 39
医療の動向 39

医療保険制度 39
医療倫理 47
色の異常 20
印象採得 89
印象採得に用いる器材準備と取扱い 89
印象用材料 86
咽頭・喉頭 13
院内感染とその防止 37
インプラント義歯 57
インプラント義歯の構成 57
インプラント義歯の特徴 57
インプラント用材料 87

〈ウ〉

ウイルス 22, 24
う蝕 20, 25
う蝕原因菌 25
う蝕治療の流れ 53
う蝕と生活習慣の関連 72
う蝕と全身疾患の関連 72
う蝕に関する指標 40
う蝕の疫学 40
う蝕の進行と症状 33
う蝕の発生要因と機序 33
う蝕の有病状況 33
う蝕の予防方法 33
 第一次予防 33
 第三次予防 33
 第二次予防 33
う蝕のリスク検査・評価 72
う蝕のリスク評価 33
う蝕予防 71
う蝕予防機序 33
う蝕予防効果 34
う蝕予防処置計画 72
う蝕予防処置の安全性 72
う蝕予防への局所応用 34
う蝕予防への全身応用 34
運動器系 3

〈エ〉

衛生行政の組織 39
衛生行政の目的 39
衛生統計の基礎 41
栄養・食生活と健康との関連 80
栄養管理 65, 68
栄養状態の把握 80
栄養素 80
疫学 36
疫学調査の進め方 41
疫学の研究方法 36
疫学の定義 36
エックス線画像の観察と評価 71
エックス線画像の形成 52
エックス線撮影 52
エックス線撮影装置 85
エックス線撮影装置の準備 91
エナメル質う蝕 20
エネルギー代謝 6
エプーリス 21
炎症 19, 58
炎症性疾患 22
炎症の概念と徴候 19
炎症の機序と病態 19
炎症の原因 19
炎症の分類 19

〈オ〉

嘔吐 15

〈カ〉

外因 19
外呼吸と内呼吸 7
介護者指導 64, 65
介護保険制度 40
外傷菌の治療 54
介助者による口腔清掃 68
開発途上国への歯科保健医療協力 43
潰瘍を主徴とする疾患 21

下顎運動・筋機能検査	51
化学療法	24
化学療法薬	24
顎間関係の記録	89
顎間関係の記録に用いる器材準備と 取扱い	89
顎関節疾患	58
顎関節症	35
顎顔面と頭蓋の成長発育	62
顎顔面の成長発育	60
顎口腔領域の疾患	57
顎骨の病変	22
各種検査の準備	89
ガス交換	7
化生	19
画像検査	52
学校歯科医	43
学校歯科保健	43
学校保健	38
学校保健安全対策	38
学校保健安全の意義と特徴	38
学校保健活動の現状	38
学校保健関係者	38
学校保健統計調査	41
窩洞	53
窩洞形成	87
仮封用材料	87
仮着用セメント	86
加齢・老化	5
加齢変化	64
加齢	64
老化	64
器官	64
組織の老化	64
身体機能の老化	64
精神・心理的变化	64
口腔領域の加齢変化	64
感覚	8
感覚器系	4
感覚障害	67
感覚の基本的性質	8
換気	7
環境と健康	36
環境保全・公害防止	36
観察方法	22
患者・家族との関係	47
患者管理	90
患者指導	64, 65
患者調査	41

患者への対応	85
患者本人と取り巻く環境の把握	64
間接修復	88
間接修復の器材準備と取扱い	88
感染	23
感染経路	23
感染症	37
感染症の成り立ちと予防	37
感染と薬物	28
感染の種類	23
感染の成立	23
感染予防対策	47
寒天印象材	86
顔面と口腔の発生	14
関連する医療関係者の身分に関する 法規	39

〈キ〉

器官・器官系	3
器官・組織の形態的变化	5
器具・材料	90, 91
器材の準備と取扱い	87
義歯床	56
義歯用材料	87
基礎知識	33, 34, 42
機能訓練法	68
機能障害別の対応法	94
嗅覚	15
救命救急処置	60, 92
凝固と溶解	6
矯正歯科治療	61
矯正歯科治療の流れ	61
種類と時期	61
診断と説明・同意	61
保定	61
治療中の管理・リスク	61
矯正歯科用器材の種類と取扱い	90
矯正装置	61
器械的装置	61
機能的装置	61
保定装置	61
共同動作の基本	85
業務記録	77
局所性止血薬	28
局所の循環障害	19
局所麻酔	59

局所麻酔時の器材・薬剤の準備と取 扱い	89
局所麻酔薬	27
筋	7
筋系	3
筋弛緩薬	27
筋の収縮	7

〈ク〉

クラウン	57
クラウンブリッジ装着時の器材と準 備	89
ガラスアイオノマーセメント	86
クラミジア	24
グラム陰性桿菌	24
グラム陰性球菌	24
グラム陽性桿菌	24
グラム陽性球菌	24

〈ケ〉

形成機序	25
経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO ₂ 〉	60
外科的歯内療法	54, 88
外科的歯内療法の器材と取扱い	88
血液	6
血液ガスの運搬	7
血液型と輸血	6
血液疾患	59
血液循環	7
血液と薬物	28
血液の成分	6
血管系	3
血管収縮薬の添加	27
結紮に必要な器具と取扱い	90
健康・疾病・異常の指標	36
健康教育の概要（推進）	81
健康教育の進め方	77, 81
健康教育の対象	81
保育所	81
幼稚園	81
学校	81
事業所	81
保健所	82
市町村保健センター	82
地域・病院・施設	82

健康教育の評価	81
健康教育の方法	81
健康教育の要点	81
健康寿命	36
健康づくり運動の変遷と現状	36
健康と歯科衛生	47
健康の概念と保持増進	36
検査	89, 90
検査結果の評価	72
検査の種類と検査値の評価	52
検査の目的	52
検査の倫理と安全	52
原虫	24
検定結果の解釈	41

〈コ〉

抗悪性腫瘍薬	28
抗ウイルス薬	28
抗炎症薬	28
構音機能検査	51
抗菌薬	28
口腔	13
口腔・顎顔面・頭頸部	13, 15
口腔〈歯科〉心身症	59
口腔インプラント手術	59
口腔衛生・口腔機能との関連	80
口腔衛生状態	79
口腔外パキューム装置	85
口腔顎顔面の加齢変化	14
口腔癌	35
口腔環境	31
口腔環境と常在微生物	25
口腔機能回復治療	55
口腔機能管理の意義と目的	93
口腔機能低下症	35, 66
口腔機能と関連する組織・器官	93
口腔機能の種類	93
口腔機能の評価	94
口腔外科治療	59
口腔健康管理	65
口腔状況に応じた指導	79
口腔常在微生物	25
口腔清掃状態に関する指標	40
口腔清掃の種類	32
口腔清掃用具	32, 78
口腔創傷の治療	21
口腔と顎顔面の発生と加齢	14

口腔内・顔面写真の撮影	90
口腔内検査・顎口腔機能検査	51
口腔内写真の観察と評価	71
口腔内状態の把握	85
口腔粘膜疾患	58
口腔粘膜傷の治療	21
口腔粘膜の感覚	15
口腔粘膜の病変	21
口腔の悪性新生物の疫学	41
口腔の器質的、機能的問題の把握	78
口腔保健活動の目標	42
口腔保健教育	42
口腔保健と健康	31
口腔保健と生活習慣	79
口腔保健と非感染性疾患〈NCDs〉	79
口腔模型の作製	90
抗いれん薬〈抗てんかん薬〉	27
抗血栓薬	28
抗原抗体反応	24
口臭検査	51
口臭の原因と分類	35
口臭の検査	35
口臭の予防	35
口臭の予防方法	35
抗真菌薬	28
合成ゴム質印象材	86
向精神薬	27
硬組織疾患の予防法	53
酵素の種類と作用	6
合着・接着・仮着用材料	86
行動調整	67
口内法・パノラマエックス線撮影装置	91
口内法撮影	92
頭部の固定	92
フィルムの位置・固定	92
抗認知症薬	27
抗パーキンソン病薬	27
紅斑・びらんを主徴とする疾患	21
抗ヒスタミン薬	28
高齢社会	64
高齢者の歯科医療	64
高齢者の歯科治療	91
高齢者の摂食嚥下障害と口腔機能低下症への対応	65
高齢者のための社会保障制度	64

高齢者の福祉制度	40
高齢者保健福祉対策	38
誤嚥性肺炎	66
呼吸	7
呼吸器・消化器・循環器と薬物	28
呼吸器系	3
呼吸器系作用薬	28
呼吸器の構造	3
呼吸の調節	7
国際機関の種類と活動	38
国際協力と国際交流	38
国際歯科保健	43
国際保健	38
国民医療費	39
国民健康・栄養調査	41
国民健康づくり対策	42
国民の受療状況	39
骨格筋	7
骨格系	3
国家統計調査の分類	41
骨粗鬆症治療薬	28
コミュニケーションスキル	77
雇用保険および労働者災害補償保険制度	40
根管充填	54
根管充填用器材・薬剤の種類と取扱	い 88
根管処置	88
根管処置用器材・薬剤の種類と取扱	い 88
根管長測定器の取扱い	88
根管治療と治療に用いる器具・器材	54
根拠に基づいた医療	37
根尖性歯周炎の分類と特徴	21
根尖性歯周組織疾患の種類と病態	53
根尖性歯周組織疾患の治療	54
根尖切除術	59
根尖部歯周組織の病変	21
根分岐部病変の治療	55
コンポジットレジン	86
根未完成歯の処置	54

〈サ〉

災害時の歯科保健	43
鰓弓〈咽頭弓〉	14

細菌	22
細菌の顕微鏡観察法	22
剤形	27
再生	19
細胞	3, 6
細胞・組織・器官	3
細胞・組織の傷害	19
細胞死	19
細胞の機能	6
細胞分裂	6
催眠薬	27
作業管理、作業環境管理、健康管理	38
酸化亜鉛ユージノール印象材	86
産業歯科保健〈職域口腔保健〉	43
産業歯科保健活動	43
産業保健	38
産業保健活動の現状	38
産業保健対策	38
産業保健の意義と特徴	38
3歳児歯科健康診査と保健指導	42
酸素吸入器	85

〈シ〉

歯科医師法	39
歯科衛生活動の場	48
歯科衛生業務	47
歯科衛生業務展開の過程	47
歯科衛生業務の進め方	47
歯科衛生業務を進めるための理論	47
歯科衛生士の現況	47
歯科衛生士の専門性〈プロフェッショナルリズム〉	48
歯科衛生士の役割	42, 47
歯科衛生士の役割と多職種連携	93
歯科衛生士の倫理綱領	47
歯科衛生士の歴史	47
歯科衛生士法	39, 47
歯科技工士法	39
歯科疾患実態調査	41
歯科疾患の疫学	40
歯科疾患の指標	40
歯科疾患の予防	31
歯科診療補助	47

歯科診療補助の範囲と業務	85
歯科治療時に注意すべき全身疾患	64
歯科治療時の全身的偶発症	60
歯科治療の必要性	94
歯科訪問診療	65, 85
歯科保健指導	47
歯科保健指導の意義と目的	77
歯科保健指導の進め方	77
歯科保健統計	41
歯科用石膏の種類と用途	86
歯科用ユニット	85
歯科用レーザー装置	85
歯科予防処置	47
歯科予防処置の法的位置づけ	71
歯冠修復用材料	86
歯間部清掃用具	32
色素沈着	21
止血処置	59, 89
止血法の種類	89
止血薬の種類と取扱い	89
歯垢染色剤	32
自己免疫疾患	20, 22
歯周基本治療	55
歯周外科治療	55, 88
歯周外科治療用器材・薬剤の種類と用途	88
歯周組織	71
歯周組織検査	51, 55
歯周組織の感覚と機能	15
歯周組織の組成	15
歯周組織の病変	21
歯周治療	55
歯周治療後の再評価	55
歯周病	25
歯周病原菌	25
歯周病と生活習慣の関連	71
歯周病と全身疾患の関連	71
歯周病と全身との関連	34, 55
歯周病に関する指標	40
歯周病の疫学	41
歯周病の疫学に用いる指数とその解釈	55
歯周病の抗菌療法	55
歯周病の種類と病態	55
歯周病の進行と症状	34
歯周病の発現とリスクファクター	55
歯周病の発生要因と機序	34

歯周病の分類	34
歯周病の分類と特徴	21
歯周病の有病状況	34
歯周病の予防方法	34
第一次予防	34
第三次予防	35
第二次予防	34
歯周病のリスク	71
歯周病のリスク評価	34
歯周病予防	71
歯周用バックの種類と取扱い	88
歯周予防処置計画	72
歯髄壊死	21
歯髄壊疽	21
歯髄炎の分類と特徴	21
歯髄検査	51, 53
歯髄疾患の種類と病態	53
歯髄充血	21
歯髄除去療法	54
歯髄処置	88
歯髄処置用器材・薬剤の準備と取扱い	88
歯髄の病変	21
歯髄の変性	21
歯髄保存療法	54
歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術	59
歯槽骨整形術	59
持続可能な開発目標〈SDGs〉	38
舌・口腔粘膜の清掃方法	32
支台装置〈維持装置〉	56
支台築造	56
直接法	56
間接法	56
市町村と都道府県の歯科保健業務	42
市町村保健センター	37
市町村保健センターの歯科保健業務	42
疾患・異常のリスクに応じた指導	79
疾病・異常の発生要因	36
児童と家庭の福祉制度	40
指導内容	79
指導の要点	79, 80
歯内-歯周疾患	53
歯内療法	53
歯内療法における安全対策	54
歯磨剤	32

分類と剤形	32
基本成分と配合目的	32
薬効〈薬用、有効、特殊〉成分と配合目的	32
歯磨剤	78
歯面研磨	90
歯面清掃・歯面研磨	72
使用機器・器具・材料の種類	72
操作方法	72
社会環境	64
社会福祉行政	40
社会保険行政	39
社会保障	39
写真処理と画像管理	92
写真の処理と管理	92
周術期の口腔健康管理	59, 90
集団・組織・地域	78
集団・組織・地域の特徴の把握	78
修復処置後の不快事項とメンテナンス	53
修復法の種類と特徴	53
宿主の抵抗性	23
受精と着床	5
術者・補助者・患者の位置と姿勢	85
腫瘍	20
腫瘍・腫瘍類似疾患	58
腫瘍・腫瘍類似病変	22
主要感染症の動向と予防	37
腫瘍の概念と疫学	20
腫瘍の原因と発生・進展の機序	20
腫瘍の肉眼的・組織学的特徴	20
腫瘍の分類	20
循環	7
循環器系	3
循環器系作用薬	28
循環障害	19
消炎手術	59
障害児者・要介護者の食事介助	81
障害児者に対する口腔衛生管理	68
障害児者に対する口腔衛生管理の意義と目的	68
障害児者の歯科治療	67, 91

障害児者の摂食嚥下障害と口腔機能管理	68
障害児者の福祉制度	40
障害の概念	66
障害の種類と歯科的特徴	66
生涯を通じた保健・福祉	36
消化管ホルモン	8
消化器系	4
消化器系作用薬	28
消化器系の構造	4
消化吸収	8
小窩裂溝填塞	73
填塞材の種類・特徴	73
適応症	73
術式	73
実施上の注意	73
使用機器・器具・材料の種類	72
小手術	89
小手術用器材の準備と取扱い	89
情緒、社会性の発達	62
消毒・滅菌	25, 85
消毒・滅菌済み器材の管理	86
消毒・滅菌の種類と効能	85
消毒・滅菌の定義	85
消毒法	25, 85
消毒薬	28
小児患者の評価と対応	63
行動の特徴と情動変化	63
小児の生活環境の評価	63
小児患者への歯科的対応	63
小児の機能の発達	62
小児の歯科治療	63
検査	63
薬物投与	63
応急処置	63
歯冠修復処置	63
歯内療法処置	63
歯周疾患の処置	63
口腔外科処置	63
外傷の処置	63
咬合誘導	63
口腔健康管理	63
小児の歯科治療	91
小児の疾病異常	63
先天性疾患、先天異常	63
顎口腔の疾患	63
小児の状態把握と対応	91
小児の成長発育	62
情報収集	85

情報収集と評価	71, 72
初期う蝕と再石灰化	33
職域での口腔保健管理	43
職業性歯科疾患	43
食支援	80
食支援・摂食介助法	68
食生活・食事記録	80
食生活の概要	80
食中毒とその予防	37
食品	80
食品と健康	37
食品の安全	37
女性生殖器の構造	4
女性の生殖機能	9
処方せん〈箋〉	27
自律神経系作用薬	27
歯列・咬合	14
歯列・咬合検査	51
歯列、咬合の成長発育	62
心筋	7
真菌	24
神経	7
神経・運動障害	67
神経系	4
神経系疾患	58
神経細胞〈ニューロン〉の機能	7
神経組織	4
神経伝達物質	27
神経伝導路	7
人口	36
人工歯	56
人口静態統計	36
人口動態統計	36
心臓	3
身体と薬物	26
人体の構成成分	6
無機質	6
有機質	6
信頼関係の構築	77
診療時の共同動作	85
診療設備の管理	85
診療の場	91
〈ス〉	
水硬性仮封材	87
水疱を主徴とする疾患	21
スクリーニング	37

スケーリング・ルートプレーニング	
72	
使用機器・器具の種類と特徴	
72	
操作方法	72
歯周ポケット内洗浄	72
シャープニング	72
ステロイド性抗炎症薬	28
スピロヘータ	24

〈セ〉

生活環境と健康	36
生活環境と生活背景の把握	77
生活機能を低下させる疾患・症候	65
生活機能を低下させる全身疾患	65
生活習慣	71
生活習慣と生活習慣病	37
生活習慣の指導・支援	79
生活習慣の把握	78
生活習慣病と非感染性疾患〈NCDs〉	37
生活習慣病の予防	37
生活保護制度	40
正常咬合	60
生殖	9
生殖器系	4
成人・高齢者・要介護者・障害者歯科保健	43
成人・高齢者の歯科保健に関連する法律等に基づく保健事業	43
成人・高齢者保健	38
成人・高齢者保健活動の現状	38
成人・高齢者保健の意義と特徴	38
精神及び行動の障害	67
精神鎮静法	59
精神鎮静法時の器材・薬剤の準備と取扱い	89
成人の歯科治療	91
精神発達・心理的発達と行動障害	66
精神保健	38
精神保健活動の現状	38
成人保健対策	38
精神保健の意義	38
成長と発育	93

世界の歯科保健の現状	43
舌運動・舌圧検査	51
切削用器具・器材の取扱いと管理	87
摂食嚥下	8, 15, 31
摂食嚥下機能検査	51
摂食嚥下障害	65, 67, 94
摂食嚥下障害の口腔機能管理の意義と目的	68
舌苔	31
接着材の種類、用途と取扱い	90
接着性レジンセメント	86
セメント系仮封材	87
セメント質う蝕	20
セメント質の増生とセメント粒	20
セラミックス	86
セルフケア、プロフェッショナルケア、パブリックヘルスケア	33, 35
セルフケア向上のための支援	68
洗口剤	32
組成と配合目的	32
薬効〈薬用、有効、特殊〉成分と配合目的	32
洗口剤	78
染色体異常	19
染色体異常に伴う障害	67
全身	5
全身管理とモニタリング	60, 92
全身疾患と歯科治療	51
全身疾患との関連	93
全身疾患の把握	51
全身状態	71
全身状態の把握	85
全身性止血薬	28
全身的偶発症への対応	93
全身的な健康状態の把握	77
全身の循環障害	19
全身麻酔	59
全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助	90
全身麻酔薬	27
先天異常	19
先天異常と発育異常	57
全部被覆冠	57

〈ソ〉

象牙質、セメント質の増生	20
象牙質う蝕	20
象牙質の増生と象牙〔質〕粒	20
操作方法	72
創傷の治癒	19
増殖と修復	19
装置装着者への指導	90
装置の装着	90
装置の撤去	90
装着後の注意	89
組織	3
咀嚼	31
咀嚼機能検査	51
その他の材料	87
その他の歯科疾患・異常の予防	35
その他の清掃用具	32
損傷	57

〈タ〉

体液と恒常性維持	6
体温	9
体温の調節	9
体温の変動	9
帯環〈バンド〉の種類と取扱い	90
大規模災害時の保健医療対策	43
胎児の発育	5
代謝障害	19
代謝性疾患と薬物	28
対象者の状態把握と対応	91
対象者の把握	71
対象と活動分野	42
対象別の指導	79, 81
対象別の指導法	94
体性感覚・内臓感覚	8
体表	5
唾液検査	51
唾液腺	13, 15
唾液腺疾患	58
唾液腺腫瘍	22
唾液腺の病変	22
多職種連携	48
唾石症	22
男性生殖器の構造	4

男性の生殖機能 9
断面と方向用語 5

〈チ〉

地域口腔保健活動の意義 42
地域口腔保健活動の進め方 42
地域歯科保健 42
地域社会と地域保健 37
地域特性の把握 42
地域包括ケアシステム 37
地域保健 37
地域保健活動の進め方 37
地域保健に関する法規 39
地域保健の組織と役割 37
地域保健の対象と活動 37
チーム歯科医療の考え方 85
地球環境と健康 36
着色歯・変色歯 35
注意すべき薬剤 64, 65
中枢神経系 4, 7
中枢神経系作用薬物 27
中枢神経興奮薬 27
超音波検査 52
腸における消化と吸収 8
直接修復 87
直接修復の器材準備と取扱い 87
治療後の注意 87, 88
鎮痛薬 28

〈ツ〉

通院困難者の病態と処置法 65

〈テ〉

定義（消毒・滅菌） 25
データの分析法 41
データのまとめ方 41
デジタル画像システム 91
撤去に必要な器材の種類、用途と取扱い 90
電気歯髄診断器の取扱い 88
テンポラリーストッピング 87

〈ト〉

頭頸部の筋系 13
頭頸部の骨格系 13

頭頸部の神経系 13
頭頸部の体表 13
頭頸部の脈管系 13
糖尿病治療薬 28
頭部エックス線規格写真のトレース 90
特殊感覚 8
特殊感覚器の構造 4

〈ナ〉

内因 19
内分泌 8
内分泌器官の機能 8
内分泌器の構造 4
内分泌系 4

〈ニ〉

二次救命処置 60, 92
乳歯、幼若永久歯の特徴 62
乳幼児の口腔保健 42
尿の生成と体液の調節 8
妊産婦・乳幼児の歯科健康診査と保健指導 42
妊産婦の口腔保健 42
妊産婦の歯科治療 91
認知および精神状態の把握 77

〈ネ〉

粘液嚢胞 22
年金制度 40

〈ノ〉

嚢胞 22, 58
嚢胞摘出術・嚢胞開窓術 59

〈ハ〉

歯・口の健康づくりの領域と構造 43
歯・口腔 71
歯・口腔の外傷 35
歯・口腔の機能 31
歯・口腔の健康状態の把握 71
歯・口腔の健康診査と事後措置 42

歯・口腔の健康診査と事後措置 43
歯・口腔の発育と変化 31
歯・口腔の発生と成長発育 31
歯・口腔の付着物、沈着物 31
歯・歯周組織の検査と評価 71
歯・歯周組織の構造 14
歯・歯周組織の発生 14
バイオフィームとしてのプラーク〈歯垢〉 25
バイオフィームとバイオフィーム感染症 25
廃棄物処理 36
バイタルサイン 60
バイタルサインと生理的特徴 62
バイタルサインの把握 92
排尿 8
排尿の仕組み 8
排便 8
胚葉 5
培養法 22
ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ 42
配慮を要する者への指導 79, 81, 94
配慮を要する者への対応 85
バキュームテクニック 85
白斑を主徴とする疾患 21
歯種・歯式 14
8020 運動 42
発音・構音 31
発音・構音機能訓練 94
発音・構音障害 67
抜歯 59, 89
抜歯および術中・術後の局所的偶発症 59
抜歯後の注意 89
抜歯創の治癒 21
抜歯用器材の準備と取扱い 89
発生 5
発声・構音 15
歯と口腔環境 31
歯と歯周組織 14, 15
歯の感覚と機能 15
歯の形成 62
歯の形態 14
歯の交換 62
歯の硬組織検査 51

歯の硬組織疾患の種類と検査法	
53	
歯の喪失	31
歯の喪失の疫学	41
歯の組成	15
歯の損傷	20
歯の損傷と色の異常	20
歯の損耗 (tooth wear)	35
歯の沈着物	31
歯の動揺度	72
歯の破折	35
歯の発育異常	20
大きさの異常	20
形の異常	20
数の異常	20
構造の異常	20
萌出の異常	20
位置の異常	20
歯の漂白	88
歯の付着物	31
歯のフッ素症に関する指標	40
歯の萌出	62
歯ブラシの構成と種類	32

〈ヒ〉

鼻腔・副鼻腔	13
被災地での歯科保健活動	43
非ステロイド性抗炎症薬	28
微生物学的検査	51
微生物と口腔環境	25
微生物の病原性	23
肥大と増生 (過形成)	19
必要な器材・薬剤の準備	91
泌尿器系	4
泌尿器系の構造	4
被曝線量の測定	92
病因論	19
評価	94
評価法	68
病原微生物とプリオン	24
漂白法の種類と器材の準備	88
病理学的検査	51

〈フ〉

フォーハンド	85
服薬管理	65
不正咬合	61

不正咬合に関する指標	40
不正咬合による障害	61
不正咬合の影響	35
不正咬合の原因と種類	35
不正咬合の予防	35
不正咬合の予防方法	35
付着物・沈着物	71
フッ化物応用によるう蝕予防	72
フッ化物歯面塗布	72
フッ化物洗口	73
フッ化物によるう蝕予防	33
フッ化物の摂取と代謝	33
フッ化物の毒性	33
フッ化物の分布	33
フッ化物配合歯磨剤	73
物質代謝	6
部分被覆冠	57
プラーク・歯石の検査	72
プラークコントロール	71
プラークコントロールの意義	32
ブラケットの種類、用途と取扱い	90
ブラッシング	32
ブラッシングの為害作用	32
ブラッシング法と特徴	32
プリオン	24
ブリッジ (固定性補綴装置)	57
ブリッジの構成	57
ブリッジの特徴	57
プロビジョナルレストレーション	57, 89
プロビジョナルレストレーションに 用いる器材準備と取扱い	89

〈ヘ〉

平滑筋	7
平均寿命	36
平均余命	36
ヘルスプロモーション	42
変性	19

〈ホ〉

法規	39
縫合	89
縫合用器材の種類と準備・取扱い	89
防護の実際	92

放射線治療	59
放射線の基礎知識	52
放射線の人体への影響	92
放射線の人体への影響と防護	92
法の分類	39
保健・医療・福祉におけるチームア プローチ	48
保健教育、保健管理、組織活動	38
保健行動の支援	77
保健所	37
保健所の歯科保健業務	42
母子歯科保健	42
母子歯科保健の意義	42
保湿剤	78
母子保健	37
母子保健活動の現状	37
母子保健対策	37
母子保健の意義と特徴	37
保存修復治療	53
保存修復治療の前準備	53
保存方法	27
補体	24
補綴装置の維持・支持・把持・安定	56
補綴装置の装着	89
補綴治療の基礎	56
補綴治療の種類と材料	56
補綴治療の流れ	56
骨の連結	3
ポリカルボキシレートセメント	86
ホルモン	8

〈マ〉

マイコプラズマ	24
麻酔	59, 89

〈ミ〉

末梢神経系	4, 7
末梢神経系作用薬物	27
味覚	15
味覚、触覚、冷温覚	31
味覚検査	51

〈メ〉

メンテナンス	55
メンテナンス	72, 73
目的	72, 73
評価	72, 73
メンテナンスと修理	56
滅菌法	25, 86
免疫	23
免疫異常と移植	20
免疫関連臓器・細胞	24
免疫と薬物	28
免疫の種類	23
免疫不全症候群	20
免疫抑制薬	28

〈モ〉

模型用材料	86
モデリングコンパウンド	86
モニタリング	92

〈ヤ〉

薬事に関する法規	39
薬品、歯科材料の管理	85
薬物動態	26
薬物の作用機序	26
薬物の適用方法	26
薬物の取り扱い	27
薬物の副作用	27
薬物の併用による相互作用	26
薬物の有害作用	27
薬物の連用	27

薬物療法の種類	26
薬理作用に影響を与える因子	26
薬理作用の基本形式	26
薬理作用の分類	26

〈ユ〉

有床義歯〈可撤性補綴装置〉	56
有床義歯装着時の器材と準備	89

〈ヨ〉

要介護者保健福祉対策	38
要支援・要介護者・障害者への歯科保健	43
予防の考え方と適用	36

〈ラ〉

ライフスタイル	37
ライフステージと薬物	27
ライフステージに応じた指導	79, 81
ライフステージに応じたフッ化物応用	73
ライフステージに対応した指導	79, 94
ライフステージの特徴	71
ライフステージ別の口腔保健の課題	42

〈リ〉

リケッチア	24
リコール	56

リコールとメンテナンス	57
リスク評価	79
リスク評価と安全管理	67
リハビリテーション	93
リン酸亜鉛セメント	86
リンパ系	3
リンパ循環	7

〈レ〉

レジン系仮封材	87
連結子〈連結装置〉	56

〈ロ〉

老化	9, 15
老化に伴う機能変化	9
老化の機序	9

〈ワ〉

ワイヤーの種類、用途と取扱い	90
わが国の社会保障制度	39
ワックス	87

〈欧文〉

AED の取扱い	92
CAD/CAM システムによる治療	56
EBM	37
MRI	52
SPT 〈supportive periodontal therapy〉	55